

2022年度

(令和4年度)

事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

学校法人 桐朋学園

目 次

I 法人の概要

1 基本情報	1
2 建学の精神	1
3 学校法人の沿革	2
4 設置する学校・学部・学科等	3
5 学校・学部・学科等の学生等数の状況	3
6 収容定員充足率	4
7 役員の概要	4
8 評議員の概要	5
9 教職員の概要	6

II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要	7
2 中期的な計画について	10
3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
(1) 法人	13
(2) 男子部門	15
(3) 女子部門	21
(4) 音楽部門	28
(5) 法人本部	31
4 その他	
(1) 施設設備	32
(2) 学費及び補助金等	34
(3) 入学試験結果	36
(4) 教職員研究研修	38

III 財務の概要

1 決算の概要	
(1) 貸借対照表	40
(2) 資金収支計算書	41
(3) 事業活動収支計算書	43
2 主な収入の推移	
(1) 学生生徒等納付金収入	44
(2) 入学検定料収入	44
(3) 補助金収入	45
3 その他	
(1) 有価証券の状況	47
(2) 借入金の状況	47
(3) 学校債の状況	47
(4) 寄付金の状況	47
(5) 関連当事者との取引の状況	48
4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
(1) 男子部門	48
(2) 女子部門	49
(3) 音楽部門	49

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 桐朋学園

(2) 主たる事務所

住所 〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1

電話番号 03-3300-2458

FAX番号 03-3300-2459

ホームページアドレス <https://www.toho-gakuen.com>

2 建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計3つのキャンパスを持つ音楽部門の、3つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

3つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

(1) 男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

「『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

(2) 女子部門

桐朋幼稚園

「一人ひとりの、幸せな子ども時代のために」「生きるために必要な根を育てます」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点に」

「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「こころの健康 からだの健康」「論理的思考力を鍛え、過程を重視する」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

(3) 音楽部門

桐朋学園大学

桐朋学園大学大学院

桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」

「音楽教育による社会貢献」

「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育 聴音教育による音感やリズム感の育成」

「理論や知識のシステムチックな教育」

「音楽スタイルの理解とその実践」

「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」

「感性教育の実践」

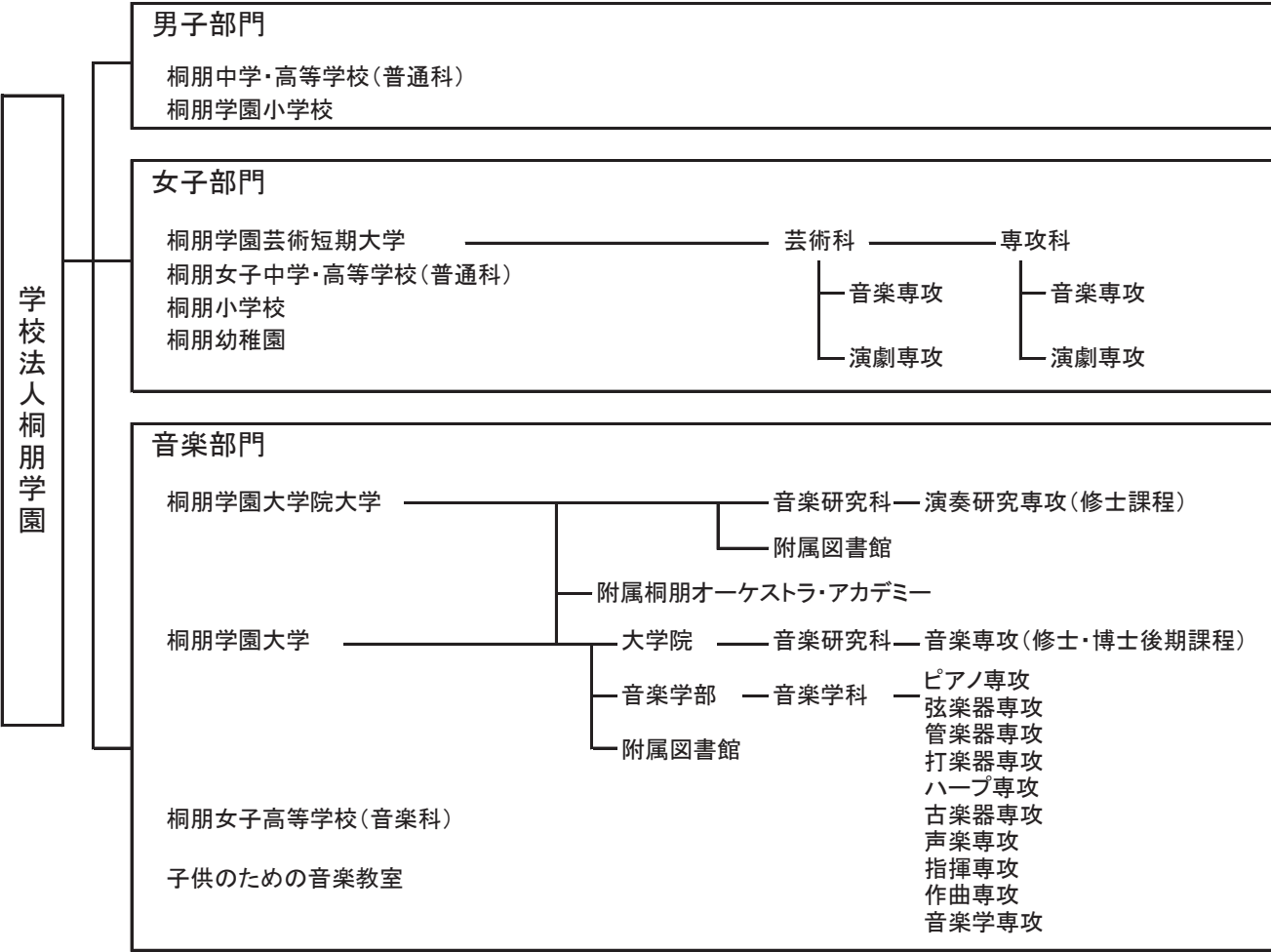
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3 学校法人の沿革

昭和15年11月7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年3月4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年4月1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年3月5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月29日東京都より認可)
昭和27年3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年2月1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成7年9月1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年5月1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4 設置する学校・学部・学科等



5 学校・学部・学科等の学生等数の状況

(2022年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	11	11	8	7	20	17
桐朋学園大学	大学院	45	71	70	65	64	90	127
	音楽研究科修士課程	3	13	12	4	4	9	10
	音楽研究科博士後期課程	180	169	168	159	145	720	636
	音楽学部 音楽学科	120	121	117	112	106	240	215
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	350	481	478	408	334	1,050	949
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	350	205	202	195	171	1,050	500
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	100	59	58	57	55	300	165
	音楽科	300	1,044	880	430	258	900	787
桐朋中学校		300	405	283	246	155	900	484
桐朋女子中学校		80	708	603	123	72	480	427
桐朋学園小学校		80	526	423	103	72	480	432
桐朋小学校		26	57	53	28	26	80	78
桐朋幼稚園								
総計		1,944	3,870	3,358	1,938	1,469	6,319	4,827

6 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	1.00	1.00	0.95	0.85	0.50
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	1.49	1.42	1.53	1.38	1.29
	音楽学部 音楽学科	0.94	0.92	0.93	0.88	0.85
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	1.00	1.01	0.97	0.89	0.85
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.91	0.91	0.90	0.90	0.90
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.52	0.48	0.46	0.47	0.46
	音楽科	0.52	0.54	0.53	0.55	0.53
桐朋中学校		0.87	0.88	0.89	0.89	0.87
桐朋女子中学校		0.54	0.51	0.54	0.53	0.53
桐朋学園小学校		0.90	0.89	0.89	0.89	0.88
桐朋小学校		0.90	0.90	0.90	0.90	0.89
桐朋幼稚園		1.00	0.98	0.98	1.00	0.97

7 役員の概要

理事：定数 13～15人 現員 13人 監事：定数2～4人 現員 2人

(2023年3月31日現在)

	氏 名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非常勤 の別	主な現職等
* 理事	河原 勇人	2010. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	原口 大助	2021. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 理事	今野 淳一	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	辰巳 明子	2022. 4. 1	常勤	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 理事	鈴木 正義	2017. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 理事	高橋 博之	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋学園女子部門事務職員
* 理事	長瀬 浩平	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
※ 理事	矢島 基美	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	上智大学法学部特別契約教授
※ 理事	薄井 紀子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	梅津 時比古	2013. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	桐朋学園大学音楽学部特任教授 前桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
※ 理事	関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	非常勤	保隣教育財団理事、前保善高等学校校長
※ 理事	片岡 哲郎	2021. 4. 1	非常勤	開智望小学校・中等教育学校理事長代理 前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
※ 理事	津田 伸子	2022. 4. 1	非常勤	(有) サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
※ 監事	伊藤 昌毅	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	弁護士
※ 監事	関口 恭三	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	非常勤	公認会計士

・業務執行・非業務執行の別…*が業務執行理事

・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第44条の2で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定により、上記※の役員との間に、同法第44条の2の役員の実任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

締結の事実はありません。

8 評議員の概要

定数 34～37人 *は理事兼任者14人
現員 34人

(2023年3月31日現在)

氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等
後藤 恭子	2018. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園小学校教諭
村野 英治	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋中学・高等学校教諭
小野島 正道	2020. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
土舘 智子	2021. 4. 1 (2023. 4. 1)	桐朋学園男子部門事務職員
佐久間 彩子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋小学校教諭
中野 浄	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校教諭
永井 由比	2022. 4. 1	桐朋学園芸術短期大学教授
進藤 寛	2022. 4. 1	桐朋学園女子部門事務職員
合田 香	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学専任講師
中井 恒仁	2020. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学教授
沼野 雄司	2022. 4. 1	桐朋学園大学教授
鶴岡 純子	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園音楽部門事務職員
津澤 絵理	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園法人本部事務職員
生江 隆之	2013. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋中学・高等学校同窓会長
橋田 伸子	2018. 6. 23 (2022. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校同窓会長
二宮 和子	2010. 4. 20 (2022. 4. 1)	桐朋学園音楽部門同窓会長
* 原口 大助	2021. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 今野 淳一	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校長
* 辰巳 明子	2022. 4. 1	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 鈴木 正義	2017. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 高橋 博之	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園女子部門事務職員
* 長瀬 浩平	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
* 河原 勇人	2010. 4. 1 (2022. 4. 1)	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	保隣教育財団理事、前保善高等学校長
* 片岡 哲郎	2021. 4. 1	開智望小学校・中等教育学校理事長代理、前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 津田 伸子	2022. 4. 1	(有)サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
* 矢島 基美	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	上智大学法学部特別契約教授
* 薄井 紀子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	東京慈恵会医科大学客員教授
* 梅津 時比古	2013. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学音楽学部特任教授、前桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
本多 俊毅	2021. 7. 31 (2022. 4. 1)	桐朋中学・高等学校PTA会長、一橋大学大学院教授
斉井 尚和	2022. 5. 25	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、銀座西勢企業株式会社代表取締役
木下 晶	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	富山県芸術文化協会会長
井上 淳子	2021. 4. 1	井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長
首藤 波津子	2017. 4. 1 (2020. 4. 1)	スポーツネットワークジャパン理事長

9 教職員の概要

(2023年5月1日現在)

部門	区分 学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	47	10	12	15
	桐朋中学校	36	6	17	8
	桐朋学園小学校	23	0	4	8
	計	106	* 1 16	33	31
	平均年齢	43.5	37.7	49.6	48.5
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	21	8	144	4
	桐朋女子高等学校普通科	41	14	38	17
	桐朋女子中学校	31	2	35	10
	桐朋小学校	24	2	10	17
	桐朋幼稚園	5	3	1	7
	計	* 2 122	29	228	55
	平均年齢	45.8	45.9	51.2	51.3
音楽部門	桐朋学園大学院大学	5	4	3	0
	桐朋学園大学・大学院	42	20	401	41
	桐朋女子高等学校音楽科	9	6	21	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	381	9
	計	56	30	* 3 806	52
	平均年齢	54.0	43.9	48.4	44.5
法人本部			3		1
	平均年齢		52.7		28.0
総計		284	78	1,067	139

* 1 外国語指導助手(ALT)を含む。

* 2 特任教授、代替教員を含む。

* 3 非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

(1) 桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

- ・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
- ・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個人の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を修得するとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個人の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の建学の精神・教育目的を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を主眼としつつ、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

(2) 桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

I 専門分野を究めるための表現・意欲の分野

- ・音楽の伝統文化を継承しながら、実践的でレベルの高い個性ある表現力を有している
- ・専門分野を主体的に学び続ける力を持っている

II 専門を支える基礎力としての知識・技能の分野

- ・音楽家として必要な理論・知識・技能を有している
- ・耳と感性の訓練により、自身の音を聴き、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている

III 柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野

- ・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
- ・今日的な課題について多角的な視点から見つめ、適切な判断ができる

IV 専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野

- ・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
- ・幅広い音楽文化を学び、音楽表現の可能性を広げることができる

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

ディプロマ・ポリシーに掲げた4分野の能力を習得するため、3群の科目群を用意し、必修部分と選択部分を設定する。詳しくは、以下に掲載している。

<https://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html>

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

(3) 桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

音楽実践に不可欠な高度な能力を養い、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した、以下の教育課程を編成している。修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。

〈ピアノコース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な技術と豊かな芸術性を持ったピアニストを育成する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスンも多く用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈弦楽器コース〉

学士教育をさらに発展させながら、より高度なレベルで演奏家としての能力を向上させる。そのために必要な実践的、理論的な専門性を持った研究を展開する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスン等も用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈声楽コース〉

学士教育をさらに発展させながら、オペラ研究分野、歌曲研究分野を置き、高度な専門性を有した研究を実施するとともに、豊かな芸術性を育む。各自の研究分野について豊かな演奏実践を経験させるとともに、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈作曲コース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な作曲法の体得と現代を含む作曲家の作品の緻密な分析を展開し創作を発展に導く。作品発表も積極的に行い実践においても更なる向上を目指す。

〈音楽学コース〉

学士教育をさらに発展させながら、現代にふさわしい多面的な視点と精緻な実証性を備えた研究を展開する。国際的な成果の達成に向けて、外国語及び日本語文献の精読を徹底するとともに、豊富な発表機会を設け、音楽大学ならではの芸術的感性と学者としての高度な論理性を両立させた専門性の高い音楽学者の道へと導く。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院修士課程は、高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践や教育を行う人材の養成を目的としている。この教育理念に基づき、音楽に関する見識、技術を有し、なおかつ幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる人材を求めている。

(4) 桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を獲得し、音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力、および音楽教育を発展させる指導者になり得る素養を身につけ、博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

上記ポリシーの実現のために、ピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5つの研究領域を置き、各自の専門とする領域について学術的研究を行う。年次ごとの研究指導のもとで作成する研究計画書に基づいて研究を計画的に実施するとともに、その成果を逐次まとめ、発表する。音楽作品、演奏様式等についての知識を深めるとともに、音楽研究に必要な様々な方法論を取得し、自らの研究の礎とする。また、討論や研究発表などを通じて積極的に問題提起を行い、研究成果のプレゼンテーションの技術も高めていく。最終的には、演奏を通じた実践的研究と学術的研究が一体化した統合的な研究を目指し、その成果として研究演奏及び博士論文の執筆と公表を義務づけている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は、専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得しており、さらに自らの研究課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、実践、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある人材を求めている。

(5) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・〈楽譜を読み取る力〉
音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。
- ・〈演奏表現〉
個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。
- ・〈アンサンブル〉
古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・専門実技、音楽理論においての知識と基礎的な理解力を有する者。（知識・理解）
- ・楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。（思考・判断）
- ・音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- ・他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。（態度）
- ・プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。（技能・表現）

(6) 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・〈戯曲を読み解く力〉
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。
- ・〈身体訓練〉
声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。
- ・〈アンサンブル〉
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。（知識・理解）
- ・習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。（思考・判断）
- ・演劇のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- ・基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。（態度）
- ・専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。（技能・表現）

2 中期的な計画について

桐朋学園では、2023年度から始まる5か年の中期的な計画（以下「中期計画」といいます。）を策定しました（2023年3月28日評議員会承認、同日理事会決定）。本法人では、原則として、毎期に改定を行うローリング方式にて中期計画を策定しております。

この方式を採る理由は、本法人を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するとともに、期毎の進捗状況も見据えながら、施策の優先順位や実行方法等、適宜見直しを図っていくためです。ただし、基本方針は一貫しており、以下に示した5点です。

桐朋学園は、男子部門、女子部門、音楽部門の3つの部門から構成される私学です。3つの部門はそれぞれが歩んできた歴史を背景に特色ある教育を展開してきました。そして、法人内部において、この3つの部門は、自部門の教育と運営に主体性と責任を持ち、相互に良い影響を及ぼし合って、学園全体にも大きな活力を生み出してきたのです。

それぞれの部門で特色ある教育を行っていますが、「人間性豊かで意欲的な、自主的・創造的な人間の育成」が、3部門に通底する教育目標です。したがって、これを、中期計画の根幹に据え、学園全体の目標としています。

以下に示しましたのは、この学園全体の目標を実現に導く基本方針となります。

- | | |
|-----|--|
| I | 【教育】 教育研究活動の改善及び質の向上を図り、自ら課題を発見し、多様な価値観の混在する社会に主体的に対応できる人間を育成する。 |
| II | 【人事】 優秀な教職員を確保して、適正な人事計画のもと教育研究活動に資する人材を育成する。法人内の連携強化のため優秀な人材を活用する。 |
| III | 【施設】 施設設備を整備して、教育研究環境の充実と向上を図る。 |
| IV | 【財務】 財政基盤の安定化を図るため、必要な学生生徒数を確保するとともに経費の削減に積極的に取り組む。 |
| V | 【組織】 部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。 |

上記学園全体の目標及び基本方針を踏まえつつ、各部門では、それぞれが抱える課題に応じて独自の目標を設定しています。

冒頭で触れた2023年度起点の中期計画を策定する基になったのが、2022年度を起点とする中期計画（2022～2026年度）ですが、2022年度において各部門は、以下に掲げる目標を掲げて、それぞれの課題に取り組んでまいりました。

その進捗状況等の詳細は、「3 事業総括、主な事業計画と進捗状況」（本報告書15頁～31頁）をご覧ください。

○男子部門

学校名	項目	目標
桐朋中学校・高等学校	新教育課程の策定と実施	本校の学習面を中心とした課題の克服 中学生の学習の定着 英語科外国人講師の充実
	進学指導の充実	高校生の志望実現に向けた進路指導の充実
	ICT機器の整備と活用	新学習指導要領下での電子情報機器の活用
	研修・行事プログラムの充実	生徒の主体的な行動における質的な向上 国際交流活動のさらなる充実
	安全・安心な学校生活の実現に向けた取組	災害時に限らない日常生活の点検・整備
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
桐朋学園小学校	施設・設備の拡充	タブレット端末を活用できる環境の整備
	グローバル化	外国語教育の拡充と国際理解教育の推進
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
	安全安心な学校管理	COVID-19感染症対策の充実 児童の登下校時の安全確保
	教育環境整備	教育補助員の充実 クラス定員減
事務部（管理運営）	ガバナンス体制の整備	諸規程の改正・整備
	安定した財務基盤の構築	学費改訂案の策定と経常費補助金分析
	施設設備の整備・充実	既存維持管理計画の立案、作成 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新 省エネ計画の立案、作成
	人材育成・人材活用	優秀な教職員の確保 人事配置計画の立案、作成 教職員のスキルアップ

○女子部門

学校名	項目	目標
桐朋学園芸術短期大学	教育の改革と質保証	教学マネジメント体制の構築 適切な学習成果の査定 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の活性化 他大学との連携強化 自己点検評価の充実 情報公開の推進
	学生募集	アドミッション・ポリシーに基づく学生募集 広報活動の強化
	将来構想	短期大学将来構想の策定
桐朋女子中学校・高等学校(普通科)	新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実	女子中高の特性を活かした新教育課程の編成、実施 モットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実
	進学指導の充実	個々人の希望する進路の実現
	ICT機器の活用と危険性の認識	個々人が利用するタブレット端末の活用策の検討 活用上の課題等についての教育・啓発
	海外研修プログラムの充実	世界に触れる経験を一人でも多くの生徒に準備
	危機管理対応の充実	東日本大震災、COVID-19への対応で得た経験・知見の整理と活用
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保、寄付金サイトの活用
桐朋小学校	施設・整備の拡充	健康教育の推進、安全対策の徹底及びインターネットによる教育活動の研修推進
	グローバル化	世界平和や持続可能な未来を考え行動できる「地球市民」の育成
	安定的な収入の確保	応募者の確保
	建築計画	教育理念・教育目標実現のための建築の具体化
桐朋幼稚園	安定的な収入の確保	応募者の確保
	教育環境整備	保育補助員等人的環境の整備と園庭整備
	建築計画	教育理念・教育目標実現のための建築の具体化
事務局(管理運営)	安定した財務基盤の構築	経費の削減と予算配分の重点化 自己収入の増加 資産運用状況の改善
	人材育成・人材活用	人事の適正化 事務の効率化と合理化の推進
	施設設備の整備・拡充	施設設備の効率的な維持管理 中長期的な整備計画の策定 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新
	ガバナンス体制の整備	コンプライアンスの徹底と内部チェック機能の構築 災害等緊急時の対応整備 安全衛生管理上の環境整備 セキュリティ対策の充実 省エネルギー、省資源化への取り組み

○音楽部門

学校名	項目	目標
桐朋学園大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	富山キャンパスとの連携強化 調布市との連携強化 海外の教育機関との連携強化
桐朋学園大学大学院	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	専攻新設適否の検討 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	TAの高校の授業への関わり 調布市との連携強化
桐朋女子高等学校(音楽科)	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進
	生徒確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	音楽教室との連携強化

○音楽部門

学校名	項目	目標
子供のための音楽教室	教育の改革と質の保証	設立の趣意を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教室運営の点検・改善 Covid-19に起因する状況への対応
	生徒確保	生徒の安定的な確保と収支の改善
	連携・協力	音楽教室の運営状況の把握
桐朋学園大学院大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教育環境の整備 教務システムの電算化の促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	志願者増に向けた方策の検討・実施 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	情報共有の強化 公開講座の充実
桐朋オーケストラ・アカデミー	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 Covid-19に起因する状況への対応 効率の良い会議
	学生の安定的な確保	国内外における認知度の向上
	連携・協力	情報共有の強化 地域との連携強化
事務局(管理運営)	ガバナンス体制の整備	グループ・リーダー制度の点検 Covid-19に起因する状況への対応
	安定した経営基盤の構築	収支バランスの適正化 効果的な広報活動の強化
	施設設備の整備・充実	教育研究環境の充実及び安全で快適な学習環境の実現
	人材育成・人材活用	教職員の採用計画の策定 職員の資質・能力向上 多様かつ効率的な事務システムの導入

○法人本部

	項目	目標
法人全体	ガバナンス体制の整備	最適な管理運営体制の構築
	安定した経営基盤の確保	広報の活性化とブランドイメージの模索 寄付金募集のあり方の検討
	施設設備の整備・充実	省エネへの支援
法人本部	ガバナンス体制の整備	理事会・評議員会の活性化 法人諸規程の点検・整備
	安定した経営基盤の確保	経費の見直しと効率化
	施設設備の整備・充実	ポロニア館等の改修等
	人材育成・人材活用	職務遂行能力の向上

3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

(1) 法人

①はじめにー 桐朋学園の構成など

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の、三部門から成っています。男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校、桐朋高等学校があり、2,163名の児童・生徒が学んでいます。女子部門には、桐朋幼稚園（共学）、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校（普通科）、桐朋学園芸術短期大学があり、1,709名の園児・児童・生徒・学生が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋女子高等学校（音楽科・共学）と桐朋学園大学音楽学部並びに大学院が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、955名の生徒・学生が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

桐朋学園は、内部的には部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。そのことが部門間相互理解の上に、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。部門ごとに教育に特色がありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切に、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

現代はビッグデータの時代といわれるように、大量かつ多種多様なデータが入手可能な時代となっています。それを如何に活用するか、ビッグデータからどのような有用な情報を抽出するかが重要であり、データサイエンスの分野が脚光を浴びることとなりました。日本のデジタル競争力は主要国の中でも低水準にあり、人材の育成が大きな課題です。2023年度は一橋大学の「ソーシャル・データサイエンス学部」をはじめとして、データサイエンス系の学部が17大学に誕生し、定員の合計は1,900名を数え、24年度には千葉大学に「情報・データサイエンス学部」の設置が予定されるなど、国を挙げてデジタル人材育成に注力しています。ちょうど今ChatGPTなどの生成AIの話題がかまびすしく、企業がデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組むことも必要不可欠となったようです。多くの有名企業が競うように社員を対象にDX教育を行う一方、「リスクリリング」という言葉が頻繁に目につくようになり、来るべきデジタル社会では、今のままのスキルでは活躍できないと言われていているようです。

そのような中、3年以上に及んだコロナ禍へのいろいろな制約が解かれました。この新型コロナウイルスの感染拡大により全世界に与えたダメージは計り知れず、我が国でも、学校の全国一斉休校の要請に始まり、テレワークの推奨、外出の自粛要請、スポーツ・文化イベントの相次ぐ中止など、まさに唐突に国民の日常は失われました。この3年に及ぶコロナ下の学校は、さまざまな困難に影響を受けながらも授業内容だけはコロナ以前と同様の成果を保証してきたと言えます。しかし、部活動、学校行事など、人と人とが交わることで生まれる学びの効果は期待できず、質の保証も危ぶまれました。

それだけではありません。ロシアによるウクライナ侵攻が原因で、世界は食糧・エネルギーの供給不足や価格高騰の事態に直面しています。

私たちはまさしく、目まぐるしく変動し、複雑で不確実で曖昧な社会に生きています。あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来予測が困難な状態の中で、自分一人では解決が難しい問題の渦中に生きているとも言えます。

対面授業を基本とした3部門は2022年度はほぼコロナ前の授業形態に復帰した1年を過ごし、行事なども概ねコロナ前同様の形で実行でき、その手応えも十分に感じてきたものと思われます。しかし、コロナウイルス感染症が5類に移行した今、3部門の各学校は今後どのような考え方に立って、学生生徒児童等を指導して行こうとするのか、たいへん重要な局面に立たされていると言って良いと思います。コロナ禍のさまざまな制約の中で、学校の広報、必要な志願者数と入学者数の確保などうまく行かなかったことは幾つもありますが、規制が解けたから元に戻る、或いは元に戻すと、果たして言うてよいのでしょうか。

教育のICT化は、この3年間で劇的に進化しましたし、アフターコロナの時代も、更に浸透を広げて行くものと思われます。加えてコロナ禍、人と人とのコミュニケーションの重要性をいやと言うほど思い知ったそのことを、これからどのように意識して桐朋教育を組み立てて行くのか、考え、活かして行かなければなりませんし、コロナ対策に全力を挙げて努めてきた陰で、少子化の現実が着実に進んできたことを肝に銘じ、3部門、少子化対策を加速させなければなりません。

こうした外部状況の中、「教育の質の向上」と「健全な財務運営」は私どもが常に追求すべき課題です。いちばん大切なことは、いかに魅力的な教育を行うかであり、そのための財務的な裏付けを整えていくことが欠かせないからです。また、若い人たちが現代社会が重視する多様性を受けとめ、お互いを尊重しハンディキャップをも含めてお互いの個性を認め合い、目の前の弱者に対し何ができるかを自らに問い、できることを積極的に働きかけて行けることこそ、今の時代に私どもが大事にしなければならない教育であります。

以下、2022年度の各部門の主な事業に触れますが、詳細は各部門の報告を参照してください。

③男子部門の主な事業

新学習指導要領の実施に合わせ、桐朋独自の教育の中核と位置づけた「自律的な学習者の育成」の向上を図る本格的な指導がスタートしました。これまで行ってきた指導を再評価し、新たな実践とを併せ行うことにより、生徒が希望の進路を切り拓く上で大きな力となり、進路指導に於ける課題改善の契機となることが期待されます。また外国語教育の充実を期して、中高では外国人講師の直接雇用が実現し、通常授業に加え夏期講習など教育環境の拡充にも繋がりました。また、東京慈恵会医科大学との連携で、高校生の研究室訪問、小学校教職員向け講演会などが実現しました。小学校の「心のすみずみにまで行きわたる教育」の一層の充実のため、クラス定員適正化の検討を進めてきました。

④女子部門の主な事業

短期大学は教育の質の保証に向け教学マネジメント体制の構築が大きな課題でありましたが、規程の策定を成し遂げ、23年度の委員会の発足に漕ぎ着けました。ICT教育推進のために2022年度、中学1年生からすべての学年でタブレット端末を活用することとなり、授業だけでなく学校生活全般に活用の幅が広がりました。また、幼稚園の預かり保育が開始された1年目でしたが、拡充を望む声が大きく、引き続き検討が行なわれています。また、女子部門の建築準備委員会が進めてきた校舎改築・改修計画がある程度の進展を見せました。災害時の避難所として施設利用の協定を調布市と結び、市と地区協議会との三者間で合同で避難所設置訓練等を行いました。

⑤音楽部門の主な事業

見直しを行った3つのポリシーの周知に努める1年でした。調布2号館にあった図書館機能を1号館を中心に移設し、再スタートした1年でもあり、仙川キャンパスの校舎での高大一体の教育が再開し2年目でもありました。高校生と大学生が混在して学ぶ状況に活気も戻って来ており、学びの効果に再び期待が集まっています。一方、教室の稼働率も高く、オンライン授業の効果が大きい授業についてはコロナ禍とは別にリモート授業の活用も併行し練習室不足に対応しました。また、東京の大学院と富山の大学院大学との情報の共有や交流が懸案であり引き続き課題です。認証評価の2023年度受審に向けて、自己点検・自己評価活動を充実させました。

⑥法人全体として

25年の長きに亘って、本部員、そして理事として豊富な識見と経験を以て法人の経営を支えてくださった高橋博之理事が、2022年度末を以て退任されました。まずもって長年に亘るご尽力に心から感謝申し上げます。

オンラインを軸とする会議体制を継続し、コロナ下の安全を引き続き確保しました。法令の改正・施行に伴い法人規程の必要な点検を進め、その一つ改正「公益通報者保護規程」が成立しました。私立学校法改正の動きでは、法人のガバナンス体制の整備について、法改正の動きに合わせ必要な対応を取ってきましたが、法案が可決され、2025年4月施行に向けて法人全体としての更なる強化に拍車がかかることとなりました。また社会的責任を果たす観点から整備が必要な、内部監査体制、定年延長問題等については改革道半ばといった状況です。

(学校法人桐朋学園 理事長 河原 勇人)

(2) 男子部門

① 2022年度の事業の概要

コロナ禍3年目となった2022年度は、コロナウイルス感染症による学級閉鎖等の対応に追われることもありましたが、過去2年でのコロナ対応の経験を踏まえ、コロナ禍においてなかなか実施できていなかった宿泊行事をはじめ、すべての行事を行うことができました。例えば、小学校の修学旅行は、3年ぶりの実施でしたが、天候に恵まれ、上高地をはじめとした絶景を堪能でき、6年生はかけがえのない時間を過ごせましたし、中高の桐朋祭は、こちらも3年ぶりの、一般の来場者をお迎えした中での開催となり、来場者は8,700人あまりに達し、想定を上回るような賑わいの中、参加団体・委員の生徒は、充実した活動を行うことができました。

学習に関しても、小中高ともに、1年を通して対面による授業を行うことができ、コロナ禍で実施を控えていた調理実習や、合唱なども、マスクを活用しながらではありますが、取り組むことができ、本来の学びに近い形となったように感じます。

2022年度の男子部門事業計画についてですが、コロナの影響を受け、十分に進められなかったものが依然としてあり、厳しい評価を下しています。例えば、中高の「高校生の志望実現に向けた進路指導の充実」では、桐朋女子高校との合同企画として、東京慈恵会医科大学への研究室訪問は行いましたが、その一度きりとなり、本来の形とは程遠い内容でしたし、「国際交流活動のさらなる充実」では、具体的な取り組みは行えず、業者との打ち合わせを行う範囲にとどまりました。小学校では、「教育補助員の充実」は、すでに導入している低学年だけでなく、中高学年への拡充を検討課題に挙げていましたが、教育環境の改善として、クラス定員減を優先して取り組むこととしたため、定員減が進むまで、計画から外すという対応を執りました。

一方、ある程度進められた内容としては、中高では「英語科外国人講師の充実」で、直接雇用した教員により、通常授業だけでなく、夏期講習を含め、充実した教育を行えましたし、「安全・安心な学校生活の実現に向けた取組」でも、体育館の一部の部屋に空調機器を設置し、環境の整備を進めることができました。小学校では、「入学試験応募者の安定確保」で、対面での学校説明会を実施でき、さらには、夏休みに校舎見学会も新たに実施し、出願者数を増やすことができました。事務部では、「学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新」で、他校の実践を学ぶ機会を持ち、そこで得た理解を基にICT教育を進める基礎の部分を構築することができました。

児童・生徒の安定的な確保に関してですが、小学校入試では、先にも触れましたとおり、広報活動を本来に近い形で実施できたことに加え、コロナ禍に端を発した私立ブームもあり、ここ10年で最多の応募者数となりました。中学入試でも、昨年度の出願者減を受け、学校説明会をはじめとした広報活動を拡充し、さらに、塾の先生方に対する説明の機会を増やすなど、積極的な取り組みを進めました。その効果もあつてか、出願者数は、一昨年水準には届きませんでしたが、一定の回復を果たすことができました。今後は、出願のしやすさを考慮し出願期間の延長したことがいっそう認知されるよう、新設される広報部を中心に、狙いを定めた広報活動を展開してまいりたいと考えております。一方、高校入試の応募者数は、一昨年並の数まで減少してしまいました。実際、2学期後半に実施した学校説明会への参加者が減少したことが影響したように感じております。2023年度の学校説明会は、実施時期を見直し、より多くの方に参加いただけるよう日程の変更をいたしました。中学と同様に、広報部による、本校の魅力のさらなる発信に努めるとともに、出願のしやすさなどの改善に向け、さらなる検討を進めてまいります。なお、入学者は、小中高ともにしっかりと確保することができました。

最後に、2022年度の大学合格状況についてです。4月初の集計で、77期生の合格体験率は71%で、ここ10年間で最多、現役進学率も55%と、同2番目の数字となっています。この理由として、合格者数が、国公立大学で同2番目、私大においては最多となったことがあります。東大・東工大・一橋大・京大・国公立医学部の現役合格者総数は24名で、ここ10年、さらにはここ5年においても、やや少なめの数となりました。この学年は、中学入試を2日間実施とした2年目の学年であり、高校での模擬試験でも健闘していただけに、残念に感じております。最難関の大学合格者が伸びなかった理由として、上記の大学にチャレンジする人数がやや少なめだったことがあります。自信をもって将来に向け、道を切り拓いていけるよう、さらに生徒を支える進路指導の工夫に取り組んでまいりたいと考えております。

② 2022年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋中学校・高等学校

事業名 学習面を中心とした課題の克服

概要

新カリ構造図の策定と実施ならびにその検証をする。また、総合的な探求の時間ならびにLHRの在り方について検討し、実施する。

進捗状況等

前年度までに策定した新教育課程に基づいて、問題なく実施している。大学入学共通テストをはじめ、大学入試で指定される科目が次第に発表されてきているが、未だに不透明な部分もあり、今後、高3の時間割構造図についてはさらなる検討を要する。今年度の教育実践を元に、各教科間の連携や学習進度、生徒への定着度合いの確認などについての検証を行っている。また、中学、高校それぞれのLHRの置き方を決定し、今後3年間の新カリ移行に伴う中高LHRの時間のずれについて対応した。とりわけ来年度高校3年生のみが旧カリになることから、その扱いを検討した。LHRの置き方について決定することはできたが、高校のLHRが現行より1時間少なくなることに對して、どのように対応していくのかについて、さらに検討を進めている。

事業名 中学生の学習の定着

概要

学習習慣定着に向けた取組ならびに学習に不安を抱えた生徒への新たなサポート体制を検討し、実施する。

進捗状況等

新カリの検討を進める中で、本校の目指すべき教育の姿を教員全体で確認をした。同時に、学習習慣定着と高校生になってからの進路指導について、我々がさらに具体的に取り組むべきことなどの検討を行った。具体的なサポート体制案はいくつか出されているが、それらを実践するための人員と財務についての検討が必要とされている。

事業名 英語科外国人講師の充実

概要

英語科外国人講師の直接雇用と専任雇用を検討する。

進捗状況等

今年度から、英語科外国人講師を直接雇用を実現することができた。今まで派遣講師のみで授業を行うことで抱えていた問題の多くを解決することができ、充実した授業が行われている。

事業名 高校生の志望実現に向けた進路指導の充実

概要

大学等での研究体験を通じた知的好奇心を高める活動を実施する。

進捗状況等

昨年度はコロナウイルスの影響により、大学等の研究施設を実際に訪れる形での活動はできなかったが、今年度は女子部門と合同で、東京慈恵会医科大学を訪問することができた。今年度は1件ではあるが企画を行えたことは前進である。しかし、コロナウイルスの影響前の状況には到底及ばない。企画立案を行うための本校における体制も含め、模索をしていく必要がある。

事業名 新学習指導要領下での電子情報機器の活用

概要

新学習指導要領下でタブレット等の情報機器の利用方法を検討するとともに、他校で先行している事例の研究を行う。また、使用環境を整備する。

進捗状況等

様々な研修会へ参加したり、他校での実践を見学するなど情報収集を行った。また、外部から講師を招いて電子情報機器に関する講習会を開くなど、今後の導入の方向性を検討した。タブレット端末として使用する機器を決定するとともに、新カリでタブレットを利用できるよう、主に高1が利用する複数教室のICT環境整備を行った。また、2023年度中3、高1より順次タブレット端末を一人一台持たせ、各教室で利用ができる環境整備を行うことを決定した。

事業名 生徒の主体的な行動における質的な向上

概要

各行事の意義の再確認とそれに基づく生徒の活動内容を見直し、実施する。

進捗状況等

新教育課程の検討と同時に、今まで本校で実施してきた様々な行事の意義についても検討を行った。コロナウイルスの影響により、過去2年間実施できなかった中1と中2の林間学校や高1夏期行事を、感染の危険性を最低限に押さえ込む方法を模索しながら実施した。また、文化祭も午前と午後の2部制の開催となったが、3年ぶりに一般来場者を迎え入れて実施した。高校のスポーツ大会は3学年合同で開催することもでき、ようやく通常に近い形で行事を行うことができた。

課外活動としては、昨年度に引き続き、陸上部部員のインターハイ連覇、地学部が砂金甲子園で3連覇を獲得した他、生物部の生徒が鳥学会での発表を行うなど、優秀な成績をおさめる際立った生徒の活躍が見られた。

事業名 国際交流活動のさらなる充実

概要

現行の語学研修・長期留学制度の見直しと新たなプログラム等を検討、実施する。

進捗状況等

コロナウイルスにより、国際交流活動に関しては厳しい状況が続いている。一昨年度から順延されているケンブリッジ語学研修も実施することができなかった。国際交流プログラムについて様々な調査を行い、実現可能な案に向けて具体的な候補地の検討を行った。

事業名 安全・安心な学校生活の実現に向けた取組

概要

熱中症等への対策の検討と実施および、登下校を含めた、学外での自律した行動を実現する。

進捗状況等

熱中症アラートの周知徹底に続き、夏期休暇中の日直によるWBGTチェック・注意喚起の放送などの仕組みを整備した。昨年度更新した防犯マニュアルについて、実際の事例でどのように対応をしたか、連絡系統は適切だったか等を振り返るケース検討を行った。

事業名 安定的な収入の確保

概要

今までの広報活動の検証と新体制の検討・実施・見直しを行う。

進捗状況等

ここ数年満足に実施することが出来なかった広報活動については、ようやく計画通りに実施することができた。また今年度、新しい広報体制が学内で作られた。しかし、細部についてはまだまだ詰め切れていない部分もあるので、来年度からの新体制での広報活動実施にむけて、さらなる検討、準備を進めている。学校案内冊子の改訂作業は終了。HPの改訂作業が本格的に進行中である。

○桐朋学園小学校

事業名 タブレット端末を活用できる環境の整備

概要

タブレット端末を用いた本校での取組（コロナウイルスによる休校時のオンライン授業を含む）と他校の事例等について検証する。また、タブレット端末を用いた教育実践と論理的思考力を育成する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症の陽性児童が3人発生したクラスは5日間の学級閉鎖とした。その際、オンライン授業を行い、Googleclassroomを使用して課題等の提出をさせた。教員に一人1台のiPadを貸与し、また児童用端末として新たにiPad 78台を購入した。以前のタブレット端末と合わせて、学年に応じた様々な授業実践を重ねている。オンラインで授業や面談、広報活動をしなければならない時のため、Googleclassroom、Microsoftteams、Zoom等の使い方を学び、経験を積み重ねることができた。

事業名 外国語教育の拡充

概要

2020年度からの英語科専任化と低・中学年におけるECの実施に引き続き、現在予定しているECカリキュラムのさらなる推進とその見直しを行う。

進捗状況等

高学年のみで行ってきた英語学習を1年生から実施し、2022年度は5年目に入った。計画通り1～6年生でテキスト「smile」の使用を開始した。5、6年生で外国人講師を招いての「EC交流会」は今年度予定していた3回すべて実施することができた。

事業名 国際理解教育の推進

概要

国際理解教育の検証と継続

進捗状況等

1月20日に一橋大学大学院社会学研究科修士課程に在籍のウクライナ出身の留学生、ドゥブニコバ・ヤンナさんにおいでいただき、ウクライナの文化や歴史、日本との関係についてお話をいただいた。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

近隣地区私学の入試動向分析をする。今までの学内外で行ってきた広報活動の検証と、今後の活動のあり方を検討する。

進捗状況等

コロナ禍での3年目の入試となったが、昨年度まではオンラインによる学校説明会しかできなかったが、今年度は来校していただいたの対面による学校説明会を7回実施することができた。参加は1家庭2名までと制限したため、説明会の他に夏休み中に校舎見学会を実施した。出願数は昨年を上回り、2008年以降で一番多かった。そういったこともあり出願数が増え、順調に入学生を決定することができた。一方で、出生数の減少も顕著である。本校を第一志望と考えてくださる家庭が増えるよう、広報活動のあり方をさらに検討していく。

事業名 コロナウイルス感染症対策の充実

概要

コロナウイルス感染症に対する児童の不安解消ならびに、学内外での基本的な感染予防対策の実施をする。また、地域の方々に温かく見守ってもらえる登下校時の態度を育成する。

進捗状況等

今年度は、感染不安による登校を見合わせている児童はいなかった。マスク着用での生活や食事のときの黙食などが当たり前の生活として定着し習慣化された。登下校に関しては、新型コロナウイルス感染症の予防のため、今年度も保護者が自家用車等で送迎を認めている。その一方で、登下校のマナーについては、折に触れ指導している。

事業名 児童の登下校時の安全確保

概要

最寄り駅の国立駅・谷保駅から学校までの児童の登下校の見守り体制を充実する。

進捗状況等

教育補助員の拡充を望む声もあるが、少子化が加速していることから、クラス定員減を喫緊の課題と捉え、教育補助員についての検討は進んでいない。教育補助員の拡充については、クラス定員減による財務の見通しがたつまでの間、この検討は先送りされることとなった。

事業名 教育補助員の充実

概要

教育補助員の役割を児童の学校生活全般と確かな学力の定着の補助と位置づけ、中・高学年への拡充を検討する。

進捗状況等

教育補助員の拡充を望む声もあるが、少子化が加速していることから、クラス定員減を喫緊の課題と捉え、教育補助員についての検討は進んでいない。教育補助員の拡充については、クラス定員減による財務の見通しがたつまでの間、この検討は先送りされることとなった。

事業名 クラス定員減

概要

「一人一人の心のすみずみにわたる教育を」のより一層の充実を図るため、1学級あたりの適正定員数について検討し、クラス定員減等を検討する。

進捗状況等

近隣に都立小学校が新設されたこと、公立小が35人学級となること、少子化が急速に進むことから、安定的な出願者数を維持するため、また「一人一人の心のすみずみにわたる教育を」の一層の充実を図るため、1クラスの適正人数について議論し、32名を目指すことを小学校教員の中で確認をした。財政的な見通しを立てることから、今後も検討が必要である。

○事務部（管理運営）

事業名 諸規程の改正・整備

概要

法改正等に伴う諸規程の改正及び教職員必携改定を行う。

進捗状況等

育児・介護休業法が改正されたことに伴い、規程の見直しを行い、教職員へ周知した。また、教職員必携改定に伴い、見直した規程を教職員必携に反映した。改定に向けて規程集の電子化を検討している。

事業名 学費改訂案の策定と経常費補助金分析

概要

今後の学校運営に関わる方針、優先順位の確認と、その実現のための学費改訂案を策定する。また経常費補助金における評価係数のさらなる分析を行う。

進捗状況等

コロナウイルス感染症の影響でのオンライン授業実施のための環境作りとして、ICT環境整備の第1段階を実施した。そのための財源確保として進学科の改訂を行うこととした。また少子化に伴い進学希望者が減少してくることを踏まえ、クラス定員減が次の優先順位となることを確認した。

過年度の男子部門ならびに女子部門の授業料等の移り変わりとその時々の評価係数から、評価係数がどのように変化するかを予想をたてた。分析によって得られた評価係数の出方を元に、クラス定員減や今後のクラス数を複数パターン想定し、それぞれについて、学費改定案を作成し、財務の見通しの検討を行った。2023年度中には、クラス定員減や将来のクラス数を確定し、さらに詳細な財務分析を行って行くことになる。

事業名 既存校舎維持管理計画の立案、作成

概要

これから15年程度は利用することになる既存旧校舎の維持管理計画の見直しと建替計画を策定する。体育館への空調設備導入（第2期）を行う。

進捗状況等

前年度の点検で見落とされていた小学校北館の2階の防水工事を行った。この防水工事は、緊急を要する修繕だったため、計画性を持って行うことが出来なかった。今後は点検業務を更に注力して行い、計画的な修繕を行うことを心掛けたい。また、中高体育館の第1・第3体育室に空調設備を導入し、有効に活用できるようにした。また、2023年度は中高体育館の残りの体育室への空調機器導入（第2期工事）を予定している。

事業名 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新

概要

新校舎建築に伴い構築したネットワークシステムの維持管理ならびに更新計画を随時更新する。

進捗状況等

タブレット端末を用いた授業を実施するため、教科教室棟と特別教室棟の一部教室にアクセスポイントを設置した。また、マイクロソフト365を生徒が使用するにあたり、ネットワークの確認、導入学年の検討を進めた。他校の例を参考にしながら、検討を進めることが出来た。デバイス納入業者と、ネットワーク管理業者、学校とが一体となってICT教育を進めていくことが出来る基礎を築いた1年であった。

事業名 省エネ計画の立案、作成

概要

新校舎建築時に見送った省エネ機器導入等新たな機器導入の検討をする。また、児童、生徒、教職員へのさらなる省エネに対する意識付けを行う。

進捗状況等

省エネ診断により指摘された東グラウンドの照明をLEDに更新した。また、新たに空調機器を導入した体育館には、ポスターの掲示などを行い、生徒へ省エネを意識付けるための取り組みをした。全熱交換器の稼働時間をコントロールすることで、かなりの消費電力を抑えることができた。

事業名 優秀な教職員の確保

概要

教員志望者が減少している現状に応じた教職員の採用人事計画の見直しを行う。

進捗状況等

教職員・講師・パートの人事に係る採用のプロセスを見直した。内定前の採用時検診を見直し、4月に採用の場合は4月に行われる定期健康診断を、雇入れ時健康診断と定期健康診断とを兼ねたものにする。そうすることによって適切で迅速な採用人事を行なうことが出来ると判断した。採用のプロセスについては、整理を行うことが出来たが、広く本校を志望してもらうための具体的な対策は検討することが出来なかった。

事業名 人事配置計画の立案、作成

概要

他校の事務職員人事配置計画の事例調査と現行制度・計画を見直す。また、事務部門の職務整理を行うと共に、職員がより主体的に教育活動に関われるような業務体制を模索する。

進捗状況等

ICT教育に係る職務把握のために、私立武蔵高等学校中学校へ聞き取りを行った。他校での授業活用例や、事務職員の職務について理解を深めた。人事配置計画についての問題点を洗い出し、今後の大まかな方向性を職員間で共有することができた。大まかな方向性の共有は出来たが、具体的なシミュレーションが十分に出来なかった。今後考えられる課題もふまえて、人事計画を行っていく。

事業名 教職員のスキルアップ

概要

現行の研修制度を見直す。自らの能力を高めることができる自己研鑽機会のさらなる創出を目指す。職員の積極的なスキルアップの機会を創出する。

進捗状況等

今年度、研修制度の見直しを十分に行うことが出来なかった。夏期事務研修会において、今後担うことが予想される職員の業務について、イメージやボリューム感を共有することが出来た。それをふまえて、どんなスキルが求められてくるのか、より一層検討を進めていく。研修制度の検討については、今年度充分に行えなかった。現状の研修制度の良さを広めつつ、取得しやすいような環境整備を進めていく。

(3) 女子部門

① 2022年度の事業の概要

2022年度を大きく俯瞰すると、コロナへの厳しい対応を徐々に緩和することができた1年でした。とは言え、短期間に区切れば、厳しい対応を取らざるを得ない時期がありました。7月中旬から8月にかけて、女子部門も第7波の大波をかぶりしました。その結果、小学校では学級閉鎖を、中高では学年閉鎖や学級閉鎖を実施し、感染拡大を防ぎました。その時期は宿泊行事を行う時期だったので、小学校ではその一部を延期、中高部ではクラブ合宿の中止、活動の縮小、短大部でも合宿の中止を余儀なくされました。その後、延期した小学校の宿泊行事を9月に実施しました。宿泊行事において、2022年度は女子部が八ヶ岳に持つ高原寮を3年ぶりに活用した年でした。この間、管理人が手間をかけて管理に当たったので、滞りなく活用することができました。

コロナ対応が一つの大きな事業として挙げられる中、私立学校として大切な事業の一つが募集活動です。コロナ禍の中で急激に活用が進んだオンラインを利用した説明会、参加型でも参加者数を限定する一方回数を増やすなど、様々工夫して実施しました。募集活動につながることで、幼稚園の預かり保育の実施が挙げられます。長年の課題だった預かり保育について、放課後、人数をある程度限定した形ではありますが、実施できたのは大きな一歩です。短大部では、結果として入学生を減らしてしまいました。今春高校を卒業した生徒は、高校3年間をすべてコロナ禍で過ごしました。この3年間、音楽や演劇といった表現活動は大幅に制限されました。桐朋に限らず、音楽や演劇系の大学、短大の多くが入学生を減らしたのは、その影響を受けたためであるのは事実でしょう。一方、これらの表現活動は、人間が本来持っている欲求の一つです。この分野がこのまま衰退していくことは考えられません。そのような中、短大としてどのような立ち位置を目指すのか、将来構想を立案し、それに向けて動きださねばなりません。

事務局の業務内容の一部変更を図ったことも、2022年度に特筆すべきことでした。具体的には管財課の無人化です。担当職員の退職に伴う欠員を補充せず、外部委託と他の課の職員が兼務する形で2022年度を過ごしました。方向性についていろいろな意見がありますが、まずはこの方向で一年やってみたことに意味があります。では今後どのように進めるのか、この1年の経験をもとに、2023年度は議論を深めていきます。

女子部門全体の事業計画として挙げられるのは、建築に関する計画です。竣工後、50年以上経つ建物が大半を占める中、すべての校舎を対象にした大規模改修を検討しています。2022年度は、大規模改修を前提として、各校舎の外壁内壁のアスベスト含有の有無やコンクリの劣化状況、配管の状況などを確認するところから始めました。その結果、短大の校舎でコンクリの劣化が著しいことがわかり、その対応を検討し、方向性を決めました。2023年度はより具体的に検討を進め、2024年度後半の工事開始を目指したいと思います。

② 2022年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園芸術短期大学

事業名 教育の改革と質保証

概要

教学マネジメント体制の構築のため、教学マネジメント準備委員会を発足させ規定の策定について検討する。適切な学習成果の査定のため、短期大学生調査結果の活用し、建学の精神、教育目的の定期的点検と 三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、学習成果、アセスメント・ポリシーの定期的点検を実施する。アセスメント・ポリシーに基づくPDCAサイクルの活用と法令遵守（コンプライアンス）の徹底、単位の実質化の徹底、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基づく、体系的・順次的学習の促進を図る。専門科目の定期的点検、教養科目の定期的点検を行い、学位取得率の維持・向上を図る。シラバス電子化の検討を行い、演奏会、発表会、試演会、卒業公演、修了公演等による学内外への学習成果の公表に取り組む。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を推進し、「学生による授業評価アンケート」の活用、FD研修会への出席率の向上、講師説明会への出席率の向上を図る。

他大学との連携強化については、桐朋学園大学との単位互換制度の推進、東京演劇大学連盟との連携事業の展開、俳優教育システム研究会との連携事業の展開、JUCA全国芸術系大学コンソーシアム等との連携を図る。

自己点検評価の充実のため、短期大学学生調査の結果の活用、自己点検・評価報告書のホームページでの定期的公表、内部質保証ルーブリックの活用、高等学校関係者等の意見聴取、認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認を行う。

情報公開の推進にあたっては、日本私立短期大学協会ガバナンス・コードに基づき、教育情報を公表するとともに、授業評価アンケート、自己評価アンケート等の結果の公表を行う。

進捗状況等

教学マネジメント準備委員会が発足し、規定の策定を終え、2023年度より教学マネジメント委員会が発足することとなった。2019年度より一般財団法人大学・短期大学基準協会が年に1回実施する短期大学生調査に参加し、学習成果の査定に活用した。建学の精神と教育目的が、時代・社会のニーズと結びついているか、原則5年毎に点検を行う。2020年度認証評価の際に「特に優れた試み」として評価された学外に向けた活動を、2022年度は感染対策を講じた上で、実施することができた。

アセスメントポリシーに基づきPDCAサイクルを活用し、自己点検・評価活動を行い、課題と改善計画を明確にした。学校教育法、短期大学設置基準等の法令の遵守に努め、感染対策についても文科省のガイドラインに沿って運営した。修登録単位数の上限を半期20単位と定め、CAP制を適切に運用している。原則対面授業としながら、感染状況に応じてオンライン授業も併用し、適正な授業回数の確保に努めた。

「授業評価アンケート」の結果を活用し、教養科目の点検を行った。2022年度に向けて舞台製作実習等を新設し充実を図り、授業全体の総合的評価の満足度は89.8%であった。

学位取得率に関して、芸術科は在籍者の90%以上が短期大学士を、専攻科は大学改革支援・学位授与機構への申請者の90%以上が学士を取得することをめざしており、2022年度も目標値を達成した。

「学生による授業評価アンケート」をオンラインで実施したところ、前期は回答率が低かったため、授業担当者のフィードバックを見送った。後期は回答率の改善に努めフィードバックを実施した。FD研修会（6月27日、12月19日開催）はコロナ禍の中、当日出席できない教員がオンデマンドで視聴できるようにするなどの対策を行った。講師説明会も同様の対策をとっている。

桐朋学園大学との単位互換では、前期は延べ69名の短大生、37名の学部生から、後期は延べ43名の短大生、33名の学部生から申し込みがあり、ほぼ希望通りの履修が認められている。東京演劇大学連盟との連携事業では、東京芸術劇場において「サマースクール」が開催され、本学からは6名の学生が参加した。

2020年度短期大学調査結果を分析し、自己点検・評価報告書に反映、結果をウェブサイトに掲載した。大学・短期大学基準協会による内部質保証ルーブリックを活用し、自己点検・評価活動を行っている。高等学校関係者等への意見聴取は、高校訪問等の機会に行った。

認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認は、自己点検・評価委員会を中心に、進捗状況を確認している。教育情報の公表は、日本私立短期大学協会ガバナンスコードに基づいて公開しているが、経年比較可能な形で公表されていない部分については見直しを行った。

事業名 学生募集—入試志願者の安定的確保

概要

アドミッション・ポリシーに基づく学生募集を推進し、芸術科入学定員の学生数確保及び専攻科入学定員の学生数確保に努める。オープンキャンパス等への参加者数増加に向けた工夫を図るとともにウェブ出願に関する具体的検討も開始する。広報活動の強化に向けて、ホームページの活用、SNSの活用、活躍する卒業生・在学生の紹介に取り組む。

進捗状況等

2022年度の入学者数は、芸術科が入学定員（120名）に対し、音楽専攻35名、演劇専攻71名、入学定員充足率は88%に、専攻科は入学定員（各専攻20名）に対し、音楽専攻18名、演劇専攻30名、入学定員充足率は83%にとどまった。オープンキャンパス等への参加者数は、コロナ禍より以前に設定した評価指標は延参加人数400名。新型コロナウイルス感染状況に応じて、各種行事をオンラインと来学（予約制）で実施し、昨年度より2割前後増加している。ウェブ出願に関する検討は年度内に業者から話を聞く機会を持つ予定であったが実現できなかった。

広報活動に関して「本学を知ったきっかけ」はホームページが最多であり、学生募集において重要性を増しており、2022年度のホームページをリニューアルして、より効果的な運用を進めることができた。また、twitter, Facebook, Line, Instagram等でも情報を発信した。本学の教育目的を明確に示すためにも、卒業生・在学生の活躍を積極的に紹介。インタビュー記事のホームページ掲載も開始した。

事業名 将来構想

概要

短期大学将来構想の策定を図るため、芸術教育の将来像の検討を行うとともに、人事計画案、財務（事業活動収支）計画案、施設・設備の整備案の検討に取り組み、将来構想実現に向けた準備を始める。

進捗状況等

将来構想委員会を中心に短大の将来像を検討している。カリキュラムポリシーに基づく人事計画案を作成し、2023年度に向けて、専任教員2名の昇任、常勤講師1名、特任教員2名の採用と6名の昇任を決めた。また、短大の将来のあり方を見据え、適切な定員管理とそれに見合った経費に基づく財務（事業活動収支）計画案の検討も進んでいる。施設・設備の整備に関しては、現在、女子部門の建築準備委員会が中心となって進めている校舎の改築・改修の計画を見守りつつ、教育環境委員会を中心に様々な課題に取り組んでいる。将来構想実現に向けて、女子部門と音楽部門の間で協議の場が設けられており、2023年度はより具体的な進展を目指したい。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名 新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実

概要

女子中高の特性を活かした新教育課程を編成し、実施する。
正課のプログラムのみならず、課外活動も通して、女子中高が50年間掲げているモットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実を図る。
①探究型・教科横断型の学習として、新たな講座（仮称：ダヴィンチ講座）をBブロック（中3・高1）に設置し、その成果を文化祭で一人ひとり発表する。
②「ことばの力」を育てるために、書く力や発表力の育成、授業中の学び合いなど、主体的・協働的な学習をより一層充実させる。
③本校オリジナルの副教材を活用した中学道德の実施。
④発表学習を通して、聞く力、聞く姿勢、意見を尊重する姿勢を育てる。
⑤生徒の主体性・協働性を育てるために、活発な学校行事、部活動を維持、推進する。

進捗状況等

高校の新課程1年目で、新設科目である地理総合や歴史総合、内容が大きく変わった情報、国語など、多くの教科でその対応に迫られながらも進め、合わせて次年度の準備に取り組んだ。教科横断型の新たな講座はT-Projectと名づけ、制度設計を進めながら、講座運営を進めた。成果発表は3月上旬に、一人ひとりポスターセッションを行う形で実施した。保護者のみならず近隣の方にも来訪いただき、意見交換する機会を設けることができた。道德に関しては、教科書と副教材を活用し、話し合う道德を進めた一方で、副教材の必要性について議論した。

事業名 進路指導の充実

概要

個々人の希望する進路を実現する。
①学習時間をしっかり確保するために、学校内での学習場所を用意する。
②進路アドバイザーを常時確保し、AO入試、推薦入試の準備にあたる。
③オンラインも活用し、学習支援のシステムを整備する。

進捗状況等

2022年4月より、高3向け自習室をリニューアルした。その結果、利用者が大幅に増えた。短大の図書館を利用した夜間の自習室も再開した。月曜から金曜まで毎日運用している。一方、放課後の学習支援については議論を進めたものの、課題が浮き彫りになり、支援の実現にはもう少し時間を要する。

事業名 ICT機器の活用と危険性の認識

概要

・個々人に持たせるタブレット端末の活用を図る。
①全生徒にタブレット端末を持たせ、授業にとどまらずあらゆる面で活用する。
・便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。
①リテラシーを学び、感情に流されずに使用できるタフさを身につける。

進捗状況等

2022年度は中高全学年でタブレット端末を導入した。説明する際、タブレットを見たり画面を提示しながら話す生徒が増えた。全員がタブレットを持ったことで委員会や部活動など、異学年と協働して行う活動での連絡がととてもやりやすくなった。その結果、活動内容が充実しつつある。2021年度、オンラインに切り替えた高1の英会話の時間は、2022年度は教員も生徒も扱いに慣れ、スムーズに実施できた。

事業名 海外研修プログラムの充実

概要

世界に触れる経験を、一人でも多くの生徒に準備する。

①豪州・シンガポール研修の実施。

②2019年度より参加している中国への研修でよい経験を積む（再開未定）。

進捗状況等

コロナ禍の中、研修は実施できず。相手国への入国が容易でないこと、入国できたとしても参加予定の授業がオンラインであることを考えると、中止はやむを得ない選択である。

事業名 危機管理対応の充実

概要

- ・東日本大震災、新型コロナウイルス対応を経て得た経験・知見をまとめ、今後に生かす。
 - ①記録を整理し、残す
 - ②事務局と連携し、非常時に備えて備蓄しているものの過不足などを確認すると共に、機器の操作に慣れる。
 - ③夏場の熱中症対策のためにも、体育館の空調設備を整備する。
- ・避難訓練の見直し

進捗状況等

2年計画で実施することとしていた体育館の空調整備の2年目の工事を、予定通り行った。2022年7月、調布市と連携し、避難所設置訓練を行った。一方、避難訓練はコロナ前の形態で実施したが、見直すまでには至らなかった。避難訓練の際、放送機材の使い方を誤り、迷惑をかけたことも引き継ぎ事項の一つである。

事業名 安定的な収入の確保

概要

- ・入学試験応募者の安定的確保
 - ①広報の3ツール（説明会、パンフレット、ホームページ）の検証、改善
 - ②入学試験の検証、改善
 - ③地元を中心とした公立中学校、学習塾への広報活動の充実
- ・寄付金サイトの活用
 - ①「寄付を受ける」から「寄付を募る」への変換を図り、積極的にアピールする。

進捗状況等

説明会は2022年度も出席者数を限定し、座席間隔をあけて着席できるよう工夫しながら行い、集客を図った。どの説明会も予約は好調であった。オンライン口頭試問体験も継続して実施した。高校受験に向けた、近隣の中学回りを今年度も継続した。高校受験生が増えつつあるのも、それがよい得位強を及ぼしていると考えられる。寄付については機会を見て訴えたが、新規に開拓する難しさを感じている。

○桐朋小学校・桐朋幼稚園

事業名 施設・整備の拡充

概要

2022年度、コロナ感染を防ぐために、3密を避け、マスク着用、手洗い、消毒などを徹底した。家庭と協力し、子どもたちの命と健康を守り、充実した保育、教育活動をすすめた。

- ①健康教育の推進や消毒など安全対策を実施した。
- ②コロナの特徴を理解し、感染しない、感染をひろげないようにした。
- ③インターネットを使用した教育活動を充実させた。

幼稚園では、人的環境を整えた。預かり保育を開始した。

進捗状況等

コロナ感染防止のため、3密を避け、マスクを着用、手洗い、消毒などを徹底した。家庭と協力し、命と健康を守り、保育、教育活動をすすめた。

- ①担任、養護教諭を中心に健康教育を推進した。家庭、学校で共同し、食事、睡眠、運動を大切に、免疫力をつけることを促した。園内や校内でコロナがひろがることはなかった。
- ②コロナの特徴（飛沫感染、接触感染）を子どもと学び、感染しない、ひろげない生活を目標とした。子どもたちが触れるもの、場所などを消毒し、安全対策をすすめた。
- ③小学校では、1学級分の端末を揃え、実践をすすめた。教員同士が実践を交流した。また、コロナで学級閉鎖期間中、家庭とインターネットでつながり、ホームルーム、学習をすすめた。

幼稚園の教育環境整備として、子どもとかかわる保育者を増やし、3学年すべてに保育補助員が位置づき、子どもの主体性、社会性を育む人的環境を整えた。2022年度より幼稚園預かり保育を実施（定員14名、指導員2名）した。

事業名 グローバル化

概要

子どもたちが、これからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人を目指して教育をすすめている。2020年度より実施した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語の3つの柱）を充実させた。

①中学年では、英語圏のみならず、自分の日常の環境にない言語、習慣、文化をもって生活している方々と触れ合うことで、異文化との出会いから興味を深める。

②高学年では、中学年で学習したことを踏まえ、世界の子どもの生活、習慣、文化などを切り口に、戦争・紛争と平和、人権、環境の問題など現代的課題やSDGsの学びと、それらを学ぶことの意味を深める。

③外国語、英語の学習では、クラスを2分割し、少人数で学ぶ。英語を母国語とする外国人講師とふれあい、コミュニケーションの楽しさを経験する。

進捗状況等

「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語）の実践をすすめた。子どもたちが、現在と未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できるよう根っこを育てた。

①中学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。

②高学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。冬季初等部全体研究会でも、「地球市民の時間」の内容について学ぶ機会を設けた。

③外国語科の講師と授業研究を行い、カリキュラムを築いた。1学級を2分割し、少人数（18名）での学習を充実させた。

事業名 安定的な収入の確保

概要

私立学校は、建学の精神、教育の理念、目標を実現していくことが使命である。保育、教育の理想を掲げ、手を携えて実現しようという保護者の方たちと協働していく。

①コロナ禍での定員確保をすすめる。感染防止策を徹底し、オンラインと対面での園、学校説明会や体験会などを開催した。

②ホームページの内容を充実させた。

③広報の充実とともに、入試改革をすすめ、応募者を増やした。

④桐朋幼稚園で幼児期を丁寧に過ごし、成長した子どもたちが桐朋小学校に入学してくるよう、幼小の連携した教育を充実させた。

進捗状況等

2022年度実施の小学校入試において、男女とも応募者が増加した。2022年度実施の幼稚園入試では、応募者が減少した。幼稚園の募集について、東京都、調布市で定員割れをする園が増加するなど、厳しい状況が続く。

①対面での説明会、オンラインでの説明会、幼稚園園庭で遊ぶ会、小学校体験会などを行った。小学校では、毎回男子はすぐに満席となり、女子は満席にならないこともあった。幼稚園では、調布市幼稚園説明会に参加するなど、新たな取り組みを行った。

②小学校では、週に1度以上の割合で、ホームページにおいて教育活動を伝えた。女子の応募者を増やすため、生き生きとした女子の様子を多く伝えるよう努力した。幼稚園では、他の業務の多忙化により、定期的なホームページ更新ができなかった。

③小学校の入試改革（コロナで1次制をとる。内容の改革と考査日の増加など）をすすめた。

④幼小の連携として、幼稚園と低学年の合同授業を実施し、研究をすすめた。小学校主催の幼稚園内部進学説明会を丁寧に行った。全員が桐朋小学校へ進学をした。

事業名 建築計画

概要

桐朋学園は、一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するという、ヒューマニズムに立つ人間教育を理念に掲げている。その理念を実現する建築をすすめる。目指すものとして、①遊びと学びの共生、②自然との共生、③多様な人々（異年齢、地域、社会）との共生、園舎、校舎は、自発的、協働的な学びを生むもの（調べる、作る、遊び、憩う、表現する、発信する、交流する場）にしたい。自然の中で、地球市民として育つ環境を（豊かな自然の中で遊ぶ、学ぶ。循環型の施設、地域の環境、地球の未来を考える。）整える。目指すものを土台にして、具体的に話し合った。

進捗状況等

桐朋学園の教育理念、建築で目指すもの、日常で大切にしている教育実践から、建築の具体化をすすめた。

方策としてあげた①建築を研究面から検討し、具体化をする。②他校見学（軽井沢風越学園）をする。③子どもの成育環境と建築について、小崎悠太講師（世界の解決すべき課題に目を向けて、自然技術の伝承、生態系が豊かになることなどを学習）と共同研究を行う。この3点について、具体的な取り組みをすすめることができた。

○事務局（管理運営）

事業名 安定した財務基盤の構築

概要

物品購入の一元化や外部委託の導入、ＩＣＴの活用等で事務業務の効率化に取り組むとともに、ＬＥＤなど環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入で管理経費の一層の削減を図る。

入学定員の獲得で学生納付金の安定的な確保に努めるとともに、短期大学は国・政府系機関の競争的資金（補助金）の獲得、高校以下は東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。また、安全かつ効果的な資産運用についても研究を進めていく。

進捗状況等

予算執行にあたる部署・職員のコスト管理に対する意識が高まり、業者との契約内容の見直し等に生かされている。また、より効率的な物品購入に向け、ＥＣ（electronic commerce）の活用を拡大した。

新型コロナウイルス感染症拡大で地方からの受験生が減少した影響、音楽を志す学生の相対的な減少の影響などから短期大学の学生募集は引き続き苦戦が続いている。学生納付金の確保が厳しい状況の中、より多くの補助金や寄付金の獲得が求められる。資産運用については、銀行・信託銀行・証券会社から基本的な情報の収集を行ったが、現在の法人の運用ルール枠内で、利率や期間等の条件に当てはまる商品を探すことは困難であった。

事業名 人材育成・人材活用

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、定年後の再任用職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行うとともに、外部人材の登用などの可能性も含め、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのＳＤ（Staff Development）活動などの研修を実施する。

事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等によって効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

進捗状況等

施設設備面の管理を担っていた管財課職員が前年度末に退職し、2022年度は、管財業務を事務局全体で担うという方向性を検証する初年度となった。事務局として大きな組織変更である。その検討の結果、一部業務の外注化などを実施した。主に点検作業が中心であるが、点検項目は年間を通じてかなりの数であり、結果として効率化が図られたと考える。

ＳＤ活動については、複数の職員が外部会場での研修、オンラインでの研修に参加した。事務局主催のＳＤ研修会も開催された。また短期大学と共催のＦＤ・ＳＤ研修会にも多くの職員が参加した。

事業名 施設設備の整備・拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。また、施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。

学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

前年度10月、校舎の全面改修案の検討を進めることが部門内で決裁された。前年度末から今年度前期にかけては、その改修工事の前段階としての各種調査が行われた。改修計画の方向性を定めるための各種調査には時間を要した。現在は計画の具体化を進めている段階である。

セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られている。専任教職員に一人1台のＰＣが行き渡る環境が整ったことにより、学内ネットワークをより安全確実に維持できるよう体制を整える。

事業名 ガバナンス体制の整備

概要

災害等緊急時の対応については、常に最新の知見を獲得、防災訓練時にその実証を行い、そこで得た評価を次の訓練時に活かす流れを確立する。

定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に活用されるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室と協力して対処する体制を整える。また、各種ハラスメントの防止や労働環境改善のための研修等も積極的に実施する。

セキュリティ対策を重視し、個人情報の適正な管理と、Webサイト等の安全性確保を徹底する。

省エネルギー、省資源化への取り組みとして、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入のほか、節電節水を奨励し、光熱水費等の節減を図る。

進捗状況等

前年度に調布市との間で、風水害時の避難場所としての施設利用に関する協定を締結したことにより、7月に調布市と合同で避難所設営訓練を行った。この合同訓練には、調布市職員、本校教職員の他、近隣の若葉学校地区協議会の方々も参加され、実地的な訓練を行うことができた。

勤怠管理システムについては、記録された労働時間等のデータを教職員の健康管理にどう役立てていくかが今後の課題となる。産業医の交代により、安全衛生管理体制が本来あるべき姿に整いつつあることは大きな前進である。

セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られている。

LED化については順調だが、今後は校舎改修工事の進行に合わせて計画を考える必要がある。事務局の書類の電子化も徐々にではあるが進んでいる。

(4) 音楽部門

① 2022年度の事業の概要

2022年度、高校・大学におけるほぼ全ての授業が、本来あるべきノーマルな形「対面」で実施されました。高校の授業だけではなく大学の授業も仙川キャンパスで行われ、コロナ禍以前のような活気ある雰囲気が仙川キャンパスに戻ったことは、喜ばしいことでした。

H館の桐朋学園宗次ホールの運用も、通常の運用を行うことができ、その中から様々な運用上の課題を見出して、それを解決して行くことによって、ホール空間運用上の知見が少しずつ得られました。このホールでは、オーケストラの授業、「木の香りコンサート」に代表される校内演奏会の他にも、高校の合唱コンクールを行ったりしました。この行事が自前の空間で行えたことは、かつて、校舎内でそれを行っていた頃と同じような実施の仕方であり、校地内で行えることの利便性を再認識しました。この合唱コンクールも、通常の形で実施できたのは3年ぶりのことでしたので、3年生は入学以来、初めて本来の姿でのこの行事を体験したことになります。また、高校3年生恒例のホームルーム活動であるミュージカルの公演は、外部の劇場ではなくこの宗次ホールで行われました。ホール建設の際にはホールの使用に関して、生徒のミュージカル公演を視野には入れておりませんでした。が、生徒や教員他の工夫によって公演が実現し、ホールの新たな使い方を学びました。

高校と大学の授業が仙川で行われることによって、教室の使用頻度が上がりました。活気のある空間を再び仙川で実現できた反面、慢性的な教室不足がさらに強く感じられました。それを少しでも改善する必要があり、コロナ対策とは別の視点でのリモート授業の活用、調布1号館の授業での利用の検討など、今できること、今ある施設の活用などの検討を行い、実施可能なことをすぐに行うことにしております。

2022年度の事業として音楽部門の掲げた主な項目は、以下の7点でした。

- ・ 大学
 - 3ポリシーの見直しと教育課程の充実
- ・ 音楽教室
 - ホームページの改善
 - 運営状況の把握・向上
- ・ 大学院
 - TA制度の検証
- ・ 大学院大学、オーケストラ・アカデミー
 - 東京と富山の交流充実
- ・ 大学院（調布）と大学院大学（富山）
 - 両大学院間のコミュニケーション
- ・ 短期大学との連携強化
 - 連携授業
- ・ 教務の電算化
 - 業務の電算化準備

それぞれの概要と進捗状況を以下に簡潔に記します。

② 2022年度の主な事業計画及びその進捗状況

○ 桐朋学園大学音楽学部・大学院

事業名 3ポリシーの整備と教育課程の充実

【概要】

教育の柱である3ポリシーを見直し、より分かりやすく表現して、その周知を徹底する。

【進捗状況等】

前年度に3ポリシーの見直しを検討し、カリキュラム・ポリシーを2022年度の履修案内に提示した。また、本学のホームページにおいて、学部、大学院（修士課程、博士後期課程）の3ポリシーを以下のように表現した。
桐朋学園大学は、「建学の精神」および「教育の目的」や「教育の理念」に基づき、以下のとおりポリシーを定めています。

◇ 音楽学部音楽学科：

ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |

◇ 大学院音楽研究科 修士課程：

ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |

◇ 大学院音楽研究科 博士後期課程：

ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |

これらホームページ上の各ポリシーそれぞれの見出し文字はハイパーリンクしており、閲覧者は文字をクリックして、ホームページ上で各ポリシーの具体的な内容に、すぐ跳べるように工夫されている。

○桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

事業名 音楽教室のHP改善と、運営状況の把握・向上

【概要】

ホームページをより良いものとし、情報発信を向上する。
各教室の在籍者の状況をリアルに把握する。

【進捗状況等】

見にくいと言われていたホームページを徐々に改善して、特に教室ごとの情報発信をしやすくした。また、音楽教室運営会議に上がってくるHPに関する改善の要望に関しても、検討し、それに応えた。

この運営会議において、在籍者数の確認を行った。また、IR室が作成した在籍者に関する資料を運営協議会などの会議体で情報共有した。今後の課題として、教室の在籍者を管理するデータベースの必要性が認識された。

音楽教室と高校・大学の繋がりを強化するためにも、大学教員による特別授業・特別レッスンなどを増やし生徒が身近に感じる機会を増やした。

○桐朋学園大学院大学

事業名 桐朋学園大学大学院の充実

【概要】

T Aの運用実績の検証を行い、T A制度の改善につなげる。

【進捗状況等】

2021年度のT Aの実績をI R室において資料化し、主任会議等で現状把握をした。今後はこのような実績の点検作業を年度毎行うことにしている。

○桐朋学園大学大学院（仙川）と桐朋学園大学院大学（富山）

事業名 富山キャンパスと仙川キャンパスの連携強化

【概要】

両大学院の特徴を活かす運営の構想

【進捗状況等】

音楽部門が2つの大学院を持つ以上は、それぞれの特徴を活かした運営を行って、それぞれが共に順調に運営されることが理想である。2022年度、わずかに一度きりではあったが、それぞれの研究科長による意見交換を行った。今後は年に2回くらい、このような会合をもって、それぞれの強みを活かした運用に繋げたい。

○短期大学との関連

事業名 桐朋学園芸術短期大学との連携強化

【概要】

芸術短期大学との連携の強化

【進捗状況等】

2022年度、学部の授業が仙川校舎に戻って来た。授業連携で短大生が音楽学部の開講する授業に受講登録した数は、前期90、後期77の計167件であった。

引き続き、短期大学との連携は、連携授業レベル、教務関連者間のレベル、図書館レベルなど、広く連携協議を続けて行く。

○教務関連

事業名 教務の電算化

【概要】

現在、紙ベース中心で行われている教務関連の業務を電算化して、業務の効率を向上する。

【進捗状況等】

学籍管理、成績管理、履修登録の電算化準備を整え、次年度からの運用開始予定までこぎつけた。パッケージとして、Web上における科目履修登録や、紙ベースではない成績の方向なども検討しており、それを可能な限り早く実現する予定である。

その他の事業について

○教育研究活動助成

事業名 教職員の教育研究活動への助成

【概要】

教職員の教育研究活動に対して、総額100万円の予算で助成を行う。

【進捗状況等】

前年度に募集した「桐朋学園音楽部門70周年記念助成」は、応募のあったプロジェクトのうち、10件（ピアノ部会3件、弦楽器部会3件、作曲理論部会2件、富山キャンパス1件、図書館1件）が採用され、そのうち前年度実施以外の4件が2022年度に実施された。

事業名 奨学金の充実

【概要】

江崎奨学金の対象拡充

【進捗状況等】

現在、ピアノ専攻生の留学支援のために限定されている「江崎奨学金」を弦楽器専攻生の留学に対しても拡大し、さらに留学のみならず、ピアノ専攻、弦楽器専攻の在学生の修学支援にも対象を広げるべく、出資者である江崎様と相談させて頂き、次年度からそのように運用拡充することになった。

○事務局

事業名 事務局組織の点検・改善

【概要】

2021年4月より部・課制を廃止してグループ・チーム制を導入した事務局組織を点検・改善する。

【進捗状況等】

入試、夏期講習、オープンキャンパス等、部署を越えての協力体制を実施した。また、新たにI R (Institutional Research) 室を設置し、様々なデータを収集した。今後は学校経営や運営を戦略的にマネジメントできる体制を強固にしていきたい。

事業名 広報活動の強化

【概要】

より効果的な広報活動を充実させ、学生・生徒募集を図る。

【進捗状況等】

広報のアドバイザーとして専門業者と契約し、桐朋学園音楽部門仙川キャンパス広報・募集対策委員会で短期的・中長期的な広報戦略について協議した。次年度以降、具現化し学生・生徒数増に繋げたい。

事業名 施設設備の整備

【概要】

魅力的で良好な教育環境を保持するために既存校舎の整備・維持・管理を行う。

【進捗状況等】

2021年度に音楽部門の新校舎建築計画は終了し、今後は既存校舎の整備・維持・管理を行っていく。2022年度は調布キャンパス1号館1階の学生ホール・図書館の照明不足を補うため器具の増設、移設工事を行った。

事業名 多様かつ効率的な事務システムの導入

【概要】

給与・会計システムをリプレイスする。

【進捗状況等】

現行システムをより効率化するために2022年度はシステム業者と具体的な仕様について打ち合わせし、一部導入した。2023年度に全て完成する。

(5) 法人本部

① 2022年度の事業の概要

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響下にあつて、法人本部は、理事会、評議員会及び法人運営審議会等法人諸会議の開催に関わる業務、法人本部及び法人全体の予算・決算とりまとめ、所轄庁等への届出等、滞りなく遂行しました。

また、法人全体の管理運営に関わっては、法人として一体性ある運営について検討を行ってきました。

三部門の自主性を基盤とする法人運営を桐朋学園が今後も続けていくためには、まずは各部門の責任ある意思決定と管理運営システムがきちんと機能していなければなりません。

一方、法人としての一定のマネジメント機能も欠かすことはできないものです。私立学校法の改正施行を控え、その重要性はますます高まってきており、法人本部は、これら厳しい諸課題に対処しなければならない三部門の支援も行ってきました。

② 2022年度の主な事業計画及びその進捗状況

【法人全体】

事業名 ガバナンス体制の整備—最適な管理運営体制の構築

概要

桐朋ならではの「本部」のあり方を研究し、法人全体の課題に対応できる体制を構築する。

進捗状況等

前年度に続き、理事会・評議員会等法人諸会議の議事録を通覧、本部及び法人に関わる議論を①理事会運営、②本部事務、③法人運営のあり方に整理した。②③に関しては、「本部門」制度の見直しを法人運営審議会に提案した。

事業名 安定した経営基盤の確保—広報の活性化とブランドイメージの模索

概要

各部門の情報を活用した、より効果的な広報を研究する。法人桐朋のブランドイメージに活用できる素材を調査する。

進捗状況等

前年度作成の保存・廃棄のルールを基に文書等の整理を一定程度進めた。広報活動については、各部門各学校の広報担当者から実務について聞き取りを行い、本部内で共有した。

事業名 施設設備の整備・充実—省エネへの支援

概要

環境自主行動計画/管理標準に基づきCO₂排出量の削減に取り組む。各部門の省エネへの支援策を検討する。

進捗状況等

担当者会議を3回、責任者を交えた会議を2回それぞれ開き、各部門のエネルギー使用量と管理標準遵守状況を確認、部門間の情報交換も行った。エネルギーの合理的な使用その他設備の適正管理に継続して取り組んだが、2022年度のエネルギー使用量は前年度より増加した。部門支援策については、LED照明の導入促進のための資金支援策を取りまとめた。

【法人本部】

事業名 ガバナンス体制の整備—理事会・評議員会の活性化

概要

理事会・評議員会における活発な意見を引き出す運営方法等を検討する。

進捗状況等

新型コロナウイルス感染症対策と会議との両立を優先し、「ハイブリッド方式」による開催を継続した。活性化策自体は課題の共有に止まった。監事支援策については、他私学の先進事例の調査検討を行った。

事業名 安定した経営基盤の確保—経費の見直しと効率化

概要

精緻な予算作成と同計画に基づき適切に予算を執行する。書類の電子化によりコスト削減、業務の効率化をめざす。

進捗状況等

電子化の対象とする書類を①理事会・評議員会招集通知及び出欠確認、②役員・評議員等給与明細及び源泉徴収票、に決定した。

事業名 施設設備の整備・充実—ポロニア館等の改修等

概要

ポロニア館を点検し、必要な改修等を行う。

進捗状況等

修繕等の必要な箇所として外壁及び屋根防水を選定、照明器具のLED化も併せて決定した。

4 その他

(1) 施設設備

①男子部門

○ 中高 体育館・空調設備設置

- ・工事概要 熱中症対策として、第1体育室と第3体育室に空調設備を設置した。
- ・工事費用 59,949,000円
- ・施工業者 株式会社エコ・プラン
- ・工事期間 2022年6月27日～8月31日

○ 中高 東グラウンド・ラグビーゴール改修

- ・工事概要 経年劣化と安全対策として、ラグビーゴールを改修した。
- ・工事費用 2,263,470円
- ・施工業者 株式会社細野スポーツ建設
- ・工事期間 2022年10月25日～10月27日

○ 小 プール・ボイラー改修

- ・工事概要 経年劣化により、プール用ボイラーを更新した。
- ・工事費用 10,890,000円
- ・施工業者 東京ガスタマライフバリュー株式会社
- ・工事期間 2022年8月1日～8月8日

○ 小 講堂・舞台装置照明設備改修

- ・工事概要 故障するリスクが高く、修理部品の保存期間も終わり修理が困難なため、設備を更新した。
- ・工事費用 25,850,000円
- ・施工業者 丸茂電機株式会社
- ・工事期間 2022年8月1日～8月27日

②女子部門

○ 小 音楽室サッシ取り付け工事

- ・工事概要 換気対策のため、窓部分にサッシを取り付ける工事を行った。
- ・工事費用 1,113,200円
- ・施工業者 信東建設株式会社
- ・工事期間 2022年3月23日～4月1日

○ 小 低学年校舎網戸設置工事

- ・工事概要 暑さ対策のため、後付け網戸を設置した。
- ・工事費用 968,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2022年5月28日～5月29日

○ 体育センター第2・第3体育室空調設置工事

- ・工事概要 熱中症対策等のため、冷暖房設備を設置した。
- ・工事費用 19,140,000円
- ・施工業者 東京冷機工業株式会社
- ・工事期間 2022年7月21日～8月31日

○ 小中高 グラウンド保存樹木剪定作業

- ・工事概要 グラウンド周辺にある保存樹木について、剪定作業を行った。
- ・工事費用 1,606,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2022年8月22日～8月23日

○ プール照明器具LED化工事

- ・工事概要 水銀灯照明更新の一環として、既設水銀灯のLED化工事を実施した。
- ・工事費用 4,059,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2022年12月23日～2023年1月4日

③音楽部門

○ 仙川キャンパス映像設備追加工事

- ・工事概要 桐朋学園宗次ホールでの映像を教員室でスイッチングして表示できる仕様に変更した。
- ・工事費用 1,430,000円
- ・施工業者 ヒビノスペーステック株式会社
- ・工事期間 2022年9月23日～9月30日

○ 調布キャンパス1号館照明改修工事

- ・工事概要 1階の学生ホール・図書館の照明不足を補うため器具の増設、移設工事を行った。
- ・工事費用 6,160,000円
- ・施工業者 清水建設株式会社
- ・工事期間 2023年2月1日～2月28日

○ 富山キャンパス外壁改修工事

- ・工事概要 老朽化のため外壁改修工事を行った(全額富山市施設整備費補助金交付)。
- ・工事費用 15,000,000円
- ・施工業者 株式会社竹中工務店
- ・工事期間 2022年7月25日～10月31日

(2) 学費及び補助金等

①男子部門

学費

(単位:円)

学校名	項目	入学金	進学科	建設資金	授業料 (月額)	施設拡充費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校		270,000	200,000	130,000	40,200	10,000	2,500	25,000
桐朋中学校		270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000 *
桐朋学園小学校		270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校 桐朋中学校 桐朋学園小学校	353,361,700 231,837,800 119,146,200
私立高校等授業料軽減助成金		44,661,800
結核予防費都費補助金		106,597
都内生就学促進補助金		1,030,800
就学支援金学校事務費補助金		1,012,000
外国語指導助手活用事業費助成金		8,606,456
デジタル教育環境整備費助成金(小・中)		4,427,000
省エネ設備等導入事業費助成金(中・高)		2,477,000
体育館空調設備新規導入費助成金(中・高)		28,577,000
学校保健特別対策事業費補助金(小・中・高)		767,000
その他		15,934,000
計		811,945,353

学園債 2022年4月～2023年3月までの受入額

桐朋高等学校	7,100,000
桐朋中学校	41,200,000
桐朋学園小学校	38,100,000
計	86,400,000

②女子部門

学費

(単位:円)

学校名	入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園 芸術 短期大学	音楽専攻 演劇専攻 音楽専攻 演劇専攻	420,000 330,000 10,000 10,000	170,000 170,000 — —	1,114,000 989,000 999,000 989,000	80,000 70,000 70,000 70,000	32,000 32,000 32,000 130,000	45,000 120,000 45,000 35,000
							35,000

学 校 名	入学金 進学手続料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000 100,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	50,600	11,500	24,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	49,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金 桐朋学園芸術短期大学	34,918,000
東京都経常費補助金 桐朋女子高等学校 桐朋女子中学校 桐朋小学校 桐朋幼稚園	291,854,000 173,235,500 103,998,600 11,309,800
理科教育設備整備費等補助金(高・中)国庫	814,000
理科教育設備整備費等補助金(高・中)都	407,000
授業料等減免費交付金(短)	18,861,800
結核予防費都費補助金(短・高)	88,719
私立高校授業料軽減助成金(高)	27,518,000
都内生就学促進補助金(高)	429,900
就学支援金学校事務費補助金(高)	573,000
外部検定試験料助成(高)	2,742,000
体育館空調設備新規導入費助成金(高・中)	9,569,000
デジタル教育環境整備助成金(高・中)	4,745,000
省エネ設備等導入事業費助成金(高・中)	2,685,000
新入生端末整備費助成金(高)	1,650,000
学校保健特別対策事業費補助金(高・中・小)	1,012,000
私立学校光熱費高騰対策事業費補助金	10,601,000
私立幼稚園教職員研修費補助金(幼)	50,000
調布市事業者物価高騰支援事業費補助金	200,000
調布市物価高騰対策補助金(幼)	683,300
私立幼稚園等新型コロナウイルス感染拡大防止対策事業費補助金(幼)	500,000
私立幼稚園事務取扱補助金(幼)	120,000
私立幼稚園預かり保育推進補助金(幼)	800,000
保存樹木せん定補助金	500,000
緑の補助金	249,700
計	700,115,319

教育環境整備寄付金 2022年4月～2023年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	600,000
桐朋女子中学校	12,500,000
桐朋小学校	6,900,000
桐朋幼稚園	6,100,000
計	26,100,000

③音楽部門

学費

(単位:円)

学校名	項目 入学金	運営維持費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	150,000 (本学卒業) 350,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	150,000	—	30,000
桐朋学園大学	600,000	300,000 (各年次)	1,360,000	340,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	500,000 (外部生) 200,000 (※1)	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

※1 桐朋中学校及び桐朋女子中学校卒業

補助金

国庫補助金

一般補助(大学院大学)	10,454,000
一般補助(大学)	70,807,000
特別補助(大学)	
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実 他	1,938,000
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)	21,964,400
令和4年度若手・女性研究者奨励金	400,000
計	105,563,400

東京都補助金

一般補助(高校)	61,061,400
特別補助(高校)	6,876,900
都内生就学促進補助(高校)	344,400
結核予防費補助(高校)	18,553
結核予防費補助(大学)	49,251
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	5,069,700
就学支援金学校事務費補助(高校)	458,000
私立学校光熱水費高騰緊急対策事業費補助金	1,204,000
計	75,082,204

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	19,514,397
計	234,514,397

(3) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	217	214	144	71
	内部 -	264	264	264	263
	計	481	478	408	※ 334
中学校	一般 第1回 約120名	380	353	145	125
	一般 第2回 約60名	597	460	218	66
	内部 -	67	67	67	67
	計	1044	880	430	258
小学校	男子 72名	485	416	50	36
	女子	223	187	73	36
	計	708	603	123	72

※但し高1生の在籍者数は、留年者も含めて335名となります。

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学

() 男子内数

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科音楽専攻	総合型A	I 期	12	12	12 (3)
		II 期	3	3	3 (0)
		III 期	2	2	2 (0)
		IV 期	3	3	3 (0)
	総合型B	I 期	1	1	1 (0)
		II 期	0	0	0 (0)
		III 期	0	0	0 (0)
	社会人	I 期	1	1	1 (0)
		II 期	2	2	2 (0)
		III 期	2	2	2 (0)
	学校推薦型	10	0	0	0 (0)
	一般	A方式	1	1	0 (0)
		B方式	1	1	1 (0)
	計	50	28	28	26 (3)
専修科音楽専攻	ピアノ	—	6	6	6 (5)
	声楽	—	9	9	9 (9)
	フルート	—	2	2	2 (2)
	クラリネット	—	1	1	1 (1)
	サクソフォン	—	1	1	1 (1)
	トランペット	—	1	1	1 (1)
	ヴァイオリン	—	4	4	4 (3)
	ヴィオラ	—	1	1	1 (1)
	チェロ	—	1	1	1 (1)
	ギター	—	1	1	1 (1)
	尺八	—	1	1	1 (1)
	計	28	28	28	26
	計	78	78	78	76
演芸芸術専攻	総合型A	I 期	27	26	26 (3)
		II 期	11	11	10 (0)
	総合型B	12	11	11	11 (3)
	学校推薦型	20	5	5	5 (1)
	一般	10	15	13	12 (5)
	計	70	70	66	64 (12)
芸術科 計		120	98	94	90 (15)
専攻科	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	演劇専攻	20	18	17	17 (2)
	音楽専攻	内部	14	14	13 (0)
		外部	1	1	1 (0)
	計	40	33	32	31 (2)

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校（普）	推薦	約15	13	13	13
	帰国生	約20	5	5	2
	一般	約50	32	32	16
	内部進学	—	140	140	140
	計	—	190	190	171
中学校	一般(A入試)	約130	110	104	95
	Creative English	約10	7	7	3
	論理的思考力&発想力入試	約40	39	28	21
	一般(B入試) 2科	約40	80	30	20
	4科	—	76	45	42
	帰国生	約20	0	0	0
	計	約240	312	214	181
	内部進学	—	57	57	57
小学校	男子	—	369	271	238
	女子	46	375	302	39
	計	46	213	143	40
	内部進学	—	588	445	79
	計	—	26	26	26
幼稚園	男子	26	42	42	14
	女子	—	21	20	16
	計	26	63	62	30

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程	45	56	55	47	45
	博士後期課程	3	11	11	5	5
	小計	48	67	66	52	50
	音楽学部					
	音楽学科 一般	90	82	82	79	57
	指定校推薦一種	10	22	22	21	21
	指定校推薦二種	60	53	52	52	51
	一般推薦	15	9	9	9	9
	特待生	5	3	3	0	0
	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	180	169	168	161	138
	編入学	若干名	6	6	6	6
	特別転入学	若干名	0	0	0	0
桐朋女子高等学校	音楽科 一般	90	48	48	47	47
	一般推薦	10	11	11	11	11
	小計		59	59	58	58
ディプロマ・コース	ソリスト 新規	——	15	12	10	10
	継続	——	8	8	8	8
	カレッジ 新規	——	40	40	37	34
	継続	——	32	32	32	31
	小計		95	92	87	83
研究生	[1]	——	6	6	6	5
	[2] 継続	——	25	25	25	22
	[3]	——	16	16	16	15
	小計		47	47	47	42
科目等履修生	一般	——	14	14	14	14
	小計		14	14	14	14
計			457	452	425	391

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻					
	修士課程 特待生	——	1	1	0	0
	一般	10	5	5	5	5
小計			6	6	5	5
科目等履修生	内部	——	0	0	0	0
	外部	——	2	2	2	2
	小計		2	2	2	2
桐朋 オーケストラ・アカデミー		——	145	135	29	27
	小計		145	135	29	27
計			153	143	36	34

(4) 教職員研究研修

①男子部門

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
中学	辰巳 友昭	高校英語リスニングをひとつひとつわかりやすく。	Gakken	2022年7月26日

②女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	個人・共同	氏名(代表者)	研 究 課 題
中高部	個 人	吉崎 亜由美	中学校・高等学校のフィールド教育におけるESDの学びのデザインと自己変容
初等部	共 同	島田 晶子	フィールドワークを通じた社会科の授業づくりの研究。 主たるフィールドは、鹿児島とする。
	個 人	束原 和郎	現代の学校に求められる改革の方向性とその実現についての研究

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー332 『マーキュリー フェア』白井晃 『カミノヒダリテ』俳優座 『チェーホフも鳥の名前』ニットキャップシアター	テアトロ (1000) 20-21	2022年4月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー334 『新平和』烏丸ストロークロック 『階層』岡田利規 『椅子に座る』OM-2	テアトロ 1002 5-7	2022年6月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー336 『シヤンドレ』小松台東 『贅沢と幸福』オバンボン創造社 『あかあか』ゆうめい	テアトロ 1005 5-7	2022年8月
		クリストファー・バルミ著『演劇の公共圏』書評	週間読書人 (3452) 3	2022年8月12日
		いまのからだから、かつての身体へ	Theatre Communication Magazine 28 (28) 13	2022年9月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー338 『Transverse Orientation』デミトリアヌス・パパイ オアヌー 『The Pride』Play Ground Creation 『破戒』劇団民藝	テアトロ (1007) 5-7	2022年10月
		別役実の晩年のスタイル『ああ、それなのに、それなのに』	図書新聞 (3568) 8	2022年11月26日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー340 『ガラスの動物園』イヴォ・ヴァン・ホーヴェ 『わたしは幾つものナラティヴのバトルフィールド』岡田利規 『やってきたゴドー』名取事務所	テアトロ (1009) 5-7	2022年12月
		寺尾格著『ドイツ演劇パースペクティヴ』書評	図書新聞 (3569) 8	2022年12月3日
		演劇書回顧 (2022年)	読書人 (3470)	2022年12月23日
		においと不条理 名取事務所「そんなに驚くな」、劇団1980「検察官」、こまつ座「吾輩は漱石である」	テアトロ (1011) 70-72	2023年1月
		なにも起こりはしなかった コロナと演劇の3年間 2022年演劇回顧	図書新聞 (3576) 8	2023年1月28日

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー342 「夏の砂の上」 「May B」マギー・マラン 「終わるときがきた」ARICA	テアトロ (1012)	2023年2月
	江原 吉博 高橋 宏幸 林 あまり 杉山 弘 小山内 伸	コロナを越えて、蘇れ!! 総括座談会 2022年の日本の演劇界	テアトロ (1012) 5-26	2023年2月
	高橋 宏幸	ワーストの不在から見る、新しい「平和」を待ちながら	テアトロ (1013) 30-31	2023年3月
		母たち、そして母なるものの肖像 ピーピング・トム『マザー』	図書新聞 (3584) 8	2023年3月25日
		逡巡というスタイル、福田善之	Theatre Communication Magazine (29) 13	2023年3月27日
中高部	岡野屋宏一	〔作品出展〕 第15回 許我篆書展、「翡翠」 第73回 毎日書道展、「問」 第41回 硯心会書展、「五風」 第11回 玄潮会秋季書展、「問」 第55回 玄潮会書展、「聞」	古河市・篆刻美術館 国立新美術館 東京都美術館 セントラルミュージアム銀座 東京都美術館	2022年4月23日 2022年7月13日 2022年8月23日 2022年8月31日 2023年2月13日
初等部	中村 博	アクティブベート保育学⑧ 保育内容「人間関係」(共著)	ミネルヴァ書房	2022年4月30日
		やっぱり学校っていいな〜コロナ禍の2年・子どもたちの生活と表現(共著)	本の泉社	2022年5月14日

③音楽部門

「桐朋学園大学研究紀要」第48集

◎論文

大学	金子 仁美	貧しい音楽 Poor music 〜ジェラルド・グリゼイの表現法と他分野での表現法の照応〜
	今井 千絵	モーリス・ラヴェル作曲『夜のガスパール』より「オンディーヌ」作品解釈 —ミュージカル・エクフラシスの視点から—
	西原 稔	ブラームスの手稿資料「オクターヴと5度」Anh.V.Nr.6に関する研究
	増野 亜子	場所から見たバリの伝統音楽教習—個人宅・集会所・学校
	安野 直	Russian Literature and Representation of Love between Men in the Post-Soviet Era: From the Emergence of Gay People as “Others” to the Deconstruction of Sexuality
高校	藤村 晶子	「前代未聞の」ラジオ劇—ハンス・フレッシュ <放送の魔法 Zauberei auf dem Sender> (ラジオ・フランクフルト、1924年) 解題

◎研究ノート

大学	杵鞭 広美 田中 正雄	新しい学習指導要領と音楽科の授業実践に関する考察 教員養成大学の現況から
	工藤 真希子	セルゲイ・リャプノフと<トレスヴォン>：ロシアの鐘の表現法
高校	鷹羽 弘晃	ソルフェージュから試みる現代音楽のアプローチ —スティーヴ・ライヒ作曲《ピアノ・フェイズ》の教材研究—

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産全体は、2018年度末284億5500万円から2022年度末280億4900万円に、4億600万円減少しました。
有形固定資産は、195億1600万円から189億300万円に6億1400万円減少しました。土地と建物とで計3億200万円減少したことが影響しています。また、教育研究用及び管理用の両機器備品の計1億1800万円の減少は主に減価償却によるものです。

負債全体は、2018年度末72億3200万円から2022年度末63億4600万円に、8億8600万円減少しました。

固定負債は、54億6700万円から46億5400万円に、8億1300万円減少しており、長期借入金7億1100万円の減少が主なものです。負債のうち有利子負債（長期借入金と短期借入金）は、27億8600万円から20億7600万円に減少しました。4年の間に25.5%減少しています。

(単位：百万円)

科 目	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
固定資産	24,494	24,972	24,924	24,214	23,972
有形固定資産	19,516	20,207	20,343	19,396	18,903
土地	1,541	1,541	1,541	1,397	1,397
建物	14,209	13,768	15,194	14,517	14,051
構築物	909	853	851	791	737
教育研究用機器備品	1,014	970	994	913	928
管理用機器備品	105	97	91	79	73
図書	1,632	1,654	1,672	1,698	1,717
建設仮勘定	106	1,324	0	0	0
特定資産	4,143	3,954	3,991	4,179	4,188
その他の固定資産	835	811	589	639	881
流動資産	3,961	3,245	3,781	4,243	4,077
現金預金	3,523	2,676	3,014	3,724	3,535
その他の流動資産	439	569	767	520	542
資産の部合計	28,455	28,217	28,705	28,457	28,049
固定負債	5,467	5,287	5,002	4,847	4,654
長期借入金	2,608	2,431	2,254	2,076	1,897
退職給与引当金	2,522	2,527	2,409	2,451	2,419
その他の固定負債	337	329	339	319	337
流動負債	1,765	1,692	1,773	1,810	1,692
短期借入金	178	178	178	178	179
前受金	982	994	956	962	896
その他の流動負債	604	520	639	671	618
負債の部合計	7,232	6,979	6,775	6,657	6,346
基本金	28,667	30,176	31,181	31,041	31,473
第1号基本金	27,602	29,111	30,116	29,976	30,408
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771
翌年度繰越収支差額	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771
純資産の部合計	21,223	21,238	21,930	21,800	21,703
負債及び純資産の部合計	28,455	28,217	28,705	28,457	28,049

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	-29.7 (1.4)	-39.2 (1.4)	-32.8 (1.5)	-20.8 (1.5)	-18.2
流動比率	流動資産 流動負債	224.4 (238.1)	191.7 (241.6)	213.2 (249.7)	234.3 (260.2)	240.9
総負債比率	総負債 総資産	25.4 (14.3)	24.7 (14.4)	23.6 (14.4)	23.3 (14.2)	22.6
前受金保有率	現金預金 前受金	358.5 (376.2)	269.1 (374.2)	315.2 (390.0)	387.2 (416.6)	394.7
積立率	運用資産 要積立額	59.8 (72.7)	49.9 (71.9)	49.3 (72.0)	52.9 (73.1)	49.6

※()の比率: 令和4年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(2) 資金収支計算書

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

前年度繰越支払資金を除いた資金収入は、2018年度90億2700万円から2022年度89億2800万円に、9900万円減少しました。学生生徒等納付金収入は、2021年度において60億円台に回復はしましたが、2022年度には再び60億円を下回る結果となりました。減少基調にあることに変わりはありません。

翌年度繰越支払資金を除いた資金支出は、2018年度87億5500万円から2022年度91億1600万円に、3億6100万円増加しました。教育研究経費支出が15億3700万円から16億6300万円と、1億2600万円増加したことが、その大きな要因です。

翌年度繰越支払資金は、2018年度35億2300万円、2019年度26億7600万円、2020年度30億1400万円、2021年度37億2400万円、2022年度35億3500万円であり、音楽部門仙川キャンパス整備のための工事費負担で減少した2019年度を除けば、それほど大きな変化は見られません。

(単位：百万円)

科 目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
収 入	学生生徒等納付金収入	6,213	6,054	5,933	6,009	5,967
	手数料収入	104	101	96	99	103
	寄付金収入	42	99	891	69	54
	補助金収入	1,841	1,917	1,992	1,908	1,908
	国庫補助金収入	200	247	356	207	161
	地方公共団体補助金収入	1,641	1,671	1,636	1,701	1,747
	資産売却収入	10	0	200	350	0
	付随事業・収益事業収入	1	2	0	11	5
	受取利息・配当金収入	23	21	18	17	25
	雑収入	271	273	269	224	287
	借入金等収入	78	66	62	66	86
	前受金収入	982	994	956	962	896
	その他の収入	853	1,342	1,057	1,188	1,040
	資金収入調整勘定	△ 1,391	△ 1,486	△ 1,659	△ 1,409	△ 1,443
	計 ①	9,027	9,384	9,816	9,494	8,928
前年度繰越支払資金		3,250	3,523	2,676	3,014	3,724
収入の部合計		12,278	12,907	12,491	12,507	12,651
支 出	人件費支出	5,800	5,631	5,682	5,582	5,726
	教育研究経費支出	1,537	1,611	1,786	1,618	1,663
	管理経費支出	350	364	374	373	354
	借入金等利息支出	11	13	12	11	10
	借入金等返済支出	240	275	251	239	264
	施設関係支出	129	1,356	708	71	136
	設備関係支出	79	160	226	119	133
	資産運用支出	169	446	125	323	340
	その他の支出	590	549	481	643	655
	資金支出調整勘定	△ 151	△ 174	△ 168	△ 195	△ 165
	計 ②	8,755	10,232	9,477	8,784	9,116
当年度収支差額 (①－②)		272	△ 847	338	710	△ 189
翌年度繰越支払資金		3,523	2,676	3,014	3,724	3,535
支出の部合計		12,278	12,907	12,491	12,507	12,651

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収入は、84億4100万円、83億4800万円、81億7900万円と減少を続けてきました。2021年度に82億7200万円に回復、2022年度は82億5200万円となりました。教育活動支出は、76億8700万円、75億8300万円、78億100万円、75億7100万円と推移し、2022年度に77億4000万円に増加しました。2022年度は、電気ガス料金の高騰により、教育研究経費支出において増加を余儀なくされたためでもありました。学生生徒等納付金収入の減少もあって、2022年度の教育活動資金収支差額は、3億8100万円にまで落ち込みました。

施設整備等活動による資金収支差額は、3億2600万円、11億5600万円、1億4200万円と、いずれも支出超過で推移した後、2021年度は1億2100万円の収入超過となり、2022年度に再び2億4300万円の支出超過となりました。2020年度の支出超過は、音楽部門の仙川キャンパス第二期工事が関係していますが、2021年度の収入超過は、調布キャンパス2号館の売却が影響しています。

その他の活動においても、資産の積極的な移動も影響して支出超過となったため、2022年度の支払資金は2021年度から1億8900万円の減となっています。

(単位：百万円)

科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,441	8,348	8,179	8,272	8,252
教育活動資金支出計	7,687	7,583	7,801	7,571	7,740
差引	755	765	378	701	512
調整勘定等	2	△ 36	△ 119	84	△ 130
A 教育活動資金収支差額	757	729	259	785	381
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	31	528	983	348	77
施設整備等活動資金支出計	359	1,617	1,040	390	320
差引	△ 328	△ 1,089	△ 57	△ 42	△ 242
調整勘定等	2	△ 67	△ 85	163	△ 0
B 施設整備等活動資金収支差額	△ 326	△ 1,156	△ 142	121	△ 243
小計(A+B)	431	△ 427	118	906	139
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	524	630	839	659	697
その他の活動資金支出計	682	1,053	619	858	1,024
差引	△ 158	△ 422	220	△ 198	△ 328
調整勘定等	△ 0	2	1	2	0
C その他の活動資金収支差額	△ 158	△ 420	220	△ 197	△ 327
支払資金の増減額(小計+C)	272	△ 847	338	710	△ 189
前年度繰越支払資金	3,250	3,523	2,676	3,014	3,724
翌年度繰越支払資金	3,523	2,676	3,014	3,724	3,535

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動 資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動収入	8.96 (12.6)	8.73 (12.0)	3.17 (13.0)	9.48 (14.6)	4.61
------------------	----------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	------

※()の比率:令和4年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(3) 事業活動収支計算書

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収入の合計は、2018年度82億9700万円から2022年度81億8600万円に減少しています。学生生徒等納付金は毎年減少を続けており、2021年度に60億円台に回復をしましたが、2022年度は再び59億円台となりました。そのような中、経常費等補助金は18億円台で安定的に推移しています。教育活動支出の合計は、2018年度83億1900万円から2022年度84億5800万円に増加しています。特に人件費は2021年度の55億5300万円から2022年度56億2500万円に増加しています。これは退職給与引当金繰入額の4600万円の増加が影響しました。以上の結果、2022年度の教育活動収支差額は2億7200万円の支出超過となり、経常収支差額も2億6000万円の支出超過となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、2018年度の3200万円の支出超過から年度によって増減がありますが、2022年度は9800万円の支出超過となっています。

(単位：百万円)

科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支					
学生生徒等納付金	6,213	6,054	5,933	6,009	5,967
手数料	104	101	96	99	103
寄付金	41	98	85	68	54
経常費等補助金	1,811	1,820	1,816	1,861	1,838
付随事業収入	2	3	△ 15	10	7
雑収入	127	214	100	153	217
収入計	8,297	8,291	8,015	8,199	8,186
人件費	5,666	5,579	5,400	5,553	5,625
教育研究経費	2,222	2,287	2,480	2,463	2,405
うち減価償却額	685	676	694	845	742
管理経費	431	413	411	478	427
うち減価償却額	81	72	78	107	76
徴収不能額等	0	1	3	3	1
支出計	8,319	8,279	8,294	8,497	8,458
収支差額	△ 22	11	△ 279	△ 298	△ 272
教育活動外収支					
受取利息・配当金	20	19	16	14	22
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
収入計	20	19	16	14	22
借入金等利息	11	13	12	11	10
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
支出計	11	13	12	11	10
収支差額	8	6	4	3	12
経常収支差額	△ 13	17	△ 276	△ 295	△ 260
特別収支					
資産売却差額	0	0	20	131	0
その他の特別収入	38	103	990	52	180
収入計	38	104	1,010	184	180
資産処分差額	56	83	16	16	14
その他の特別支出	0	23	26	2	3
支出計	56	105	42	18	18
収支差額	△ 18	△ 2	968	165	162
基本金組入前当年度収支差額 (事業活動収支差額比率)	△ 32 (△0.38%)	15 (0.18%)	692 (7.64%)	△ 130 (△1.55%)	△ 98 (△1.16%)
基本金組入額合計	△ 230	△ 1,589	△ 1,006	△ 260	△ 432
当年度収支差額	△ 262	△ 1,574	△ 314	△ 390	△ 529
前年度繰越収支差額	△ 7,219	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241
基本金取崩額	37	81	0	400	0
翌年度繰越収支差額	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771

(参考)

事業活動収入計	8,355	8,413	9,056	8,397	8,388
事業活動支出計	8,387	8,398	8,364	8,527	8,486

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費	68.1	67.1	67.2	67.6	68.5
	経常収入	(49.0)	(48.7)	(47.5)	(46.3)	
教育研究経費比率	教育研究経費	26.7	27.5	30.8	29.9	29.3
	経常収入	(40.0)	(40.4)	(40.8)	(40.4)	
管理経費比率	管理経費	5.1	4.9	5.1	5.8	5.2
	経常収入	(6.9)	(7.0)	(6.4)	(6.4)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	-0.3	0.1	7.6	-1.5	-1.1
	事業活動収入	(4.0)	(3.8)	(5.5)	(7.2)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	74.6	72.8	73.8	73.1	72.6
	経常収入	(51.5)	(51.0)	(50.3)	(48.7)	
経常収支差額比率	経常収支差額	-0.1	0.2	-3.4	-3.5	-3.1
	経常収入	(3.7)	(3.6)	(5.0)	(6.6)	

※()の比率:令和4年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

2 主な収入の推移

(1) 学生生徒等納付金収入

2022年度におきましても、入学者数の確保は大きな課題となりました。男子部門は、小中高全ての学校でほぼ前年度並みの生徒数を確保しました。

女子部門は、高校普通科で前年度の10名増となりました。そのほかの学校でほぼ前年度の数を維持した結果、部門全体で1,788名となりました。

音楽部門は、大学が対前年度37名減の636名となりましたが、高校音楽科では5名増となりました。

(単位：人、千円)

年 度 部 門		学生生徒等数					学生生徒等納付金収入				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
男子部門	桐朋高等学校	972	961	965	955	946	675,051	667,402	670,569	652,999	650,626
	桐朋中学校	778	788	797	802	808	621,157	625,739	631,689	633,079	640,049
	桐朋学園小学校	430	432	429	428	429	308,643	312,955	312,778	309,251	310,923
	計	2,180	2,181	2,191	2,185	2,183	1,604,851	1,606,096	1,615,037	1,595,328	1,601,599
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	317	322	316	298	294	448,625	451,965	449,161	419,888	425,903
	桐朋女子高等学校（普通科）	636	553	513	490	500	408,818	359,444	356,541	331,868	341,065
	桐朋女子中学校	513	490	465	488	484	402,101	384,650	391,378	403,053	394,333
	桐朋小学校	429	432	433	433	432	360,974	367,289	377,004	377,419	375,325
	桐朋幼稚園	78	78	77	77	78	74,697	65,673	67,183	68,032	68,427
	計	1,973	1,875	1,804	1,786	1,788	1,695,215	1,629,021	1,641,267	1,600,259	1,605,052
音楽部門	桐朋学園大学院大学	21	20	19	19	16	19,400	19,700	18,000	17,600	15,900
	桐朋学園大学大学院	102	103	120	129	137	156,079	160,184	192,959	203,993	211,651
	桐朋学園大学音楽学部	717	682	665	673	636	1,667,337	1,593,319	1,553,352	1,577,906	1,506,549
	桐朋女子高等学校（音楽科）	180	157	164	160	165	252,521	220,435	238,273	224,170	234,696
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	2,287	2,154	1,981	1,997	2,036	776,204	783,812	641,983	749,663	748,881
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	61	64	64	62	61	41,472	41,820	31,928	39,794	42,563
	計	3,368	3,180	3,013	3,040	3,051	2,913,013	2,819,270	2,676,495	2,813,125	2,760,239
法人合計		7,521	7,236	7,008	7,011	7,022	6,213,079	6,054,386	5,932,798	6,008,713	5,966,890

※ 学生生徒数は各年度5月1日現在である（但し、子供のための音楽教室は3月31日現在）。

(2) 入学検定料収入

桐朋中学校の志願者数は、2021年度の899名から1,044名に増加しました。桐朋高等学校で対前年度16名の減となりましたが、男子部門全体では2020年度以前の水準に回復しました。他方、女子部門では、短期大学で10名増、高校普通科で15名減、中学校で36名減、小学校で88名増となりました。音楽部門では、富山の大学院大学が8名に減少、定員割れの状態となりました。

(単位：人、千円)

年 度 部 門		志願者数（内部進学者を含む）					入学検定料収入				
		2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2023年度 入学者	2019年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2023年度 入学者
男子部門	桐朋高等学校	500	505	472	497	481	6,425	6,150	5,400	6,000	5,450
	桐朋中学校	1,174	1,153	1,154	899	1,044	26,185	26,030	25,008	20,267	23,400
	桐朋学園小学校	559	602	602	684	708	14,375	15,300	15,150	17,200	18,325
	計	2,233	2,260	2,228	2,080	2,233	46,985	47,480	45,558	43,467	47,175
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	215	174	103	121	131	7,360	6,175	4,425	4,695	3,800
	桐朋女子高等学校（普通科）	182	199	175	205	190	1,012	1,196	1,127	1,564	1,357
	桐朋女子中学校	369	385	376	405	369	7,002	7,210	7,125	7,365	6,869
	桐朋小学校	370	412	442	526	614	10,125	10,550	11,925	13,600	15,450
	桐朋幼稚園	98	73	69	57	63	2,140	1,460	1,400	1,320	1,340
	計	1,234	1,243	1,165	1,314	1,367	27,639	26,591	26,002	28,544	28,816
音楽部門	桐朋学園大学院大学	13	14	17	14	8	470	360	490	400	241
	桐朋学園大学大学院音楽研究科	67	73	62	85	67	2,010	2,190	1,860	2,550	2,131
	桐朋学園大学音楽学部	187	187	182	165	169	14,062	10,478	10,050	10,868	11,701
	桐朋女子高等学校（音楽科）	55	67	51	60	59	2,888	3,518	2,678	3,150	3,258
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	—	—	—	—	—	2,968	2,844	2,492	2,536	4,870
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	128	135	142	145	146	1,382	2,228	2,343	2,393	2,437
	計	450	476	454	469	449	23,779	21,617	19,912	21,896	24,636
法人合計		3,917	3,979	3,847	3,863	4,049	98,403	95,688	91,472	93,907	100,627

※ 志願者数は、転編入を除き、内部進学を含む

(3) 補助金収入

ア) 補助金部門別交付額の推移

本法人に対する補助金総額は、2018年度18億4100万円、2019年度19億1700万円、2020年度19億9200万円、2021年度及び2022年度19億800万円と、年度による増減はあるものの、安定的に推移しています。

男子部門への補助金は、7億2900万円、7億5600万円、7億4800万円、7億7200万円と推移し、2022年度は8億1200万円に、2021年度から4000万円増加しました。

女子部門への補助金は、6億8200万円、7億600万円、6億8800万円、7億400万円と推移し、2022年度は7億円に、2021年度から400万円減少しました。

音楽部門への補助金は、4億3100万円、4億5500万円、5億5600万円、4億3200万円と推移し、2022年度は3億9600万円に、2021年度から3600万円減少しました。音楽部門の2020年度の補助金には、仙川キャンパス第二期工事に対する補助金1億6100万円が含まれています。

(単位：千円)

部門・学校\年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
男子部門	桐朋高等学校	388,358	404,992	396,386	412,594	428,153
	桐朋中学校	223,238	234,596	233,071	237,322	258,634
	桐朋学園小学校	117,258	116,155	118,393	122,218	125,673
	計	728,854	755,743	747,850	772,134	812,460
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	53,127	55,604	72,555	64,395	53,969
	桐朋女子高等学校（普通科）	334,899	349,146	325,883	338,059	339,095
	桐朋女子中学校	175,822	180,848	172,445	185,135	185,485
	桐朋小学校	106,424	110,052	104,210	102,210	107,798
	桐朋幼稚園	11,229	10,842	12,680	13,973	13,769
	計	681,502	706,492	687,774	703,772	700,115
音楽部門	桐朋学園大学院大学	120,698	115,749	130,382	126,332	126,555
	桐朋学園大学大学院	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	135,081	158,635	266,166	128,543	94,759
	桐朋女子高等学校（音楽科）	71,575	71,091	71,365	76,055	75,033
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	103,631	109,505	88,319	100,995	99,299
	計	430,986	454,981	556,232	431,926	395,646
法人合計		1,841,342	1,917,216	1,991,855	1,907,832	1,908,221

イ) 補助金種類別交付額の推移

私立大学等経常費補助金は、2018年度以降1億8600万円、1億7700万円、1億6000万円、1億6700万円と推移してきましたが、2022年度は1億1800万円となり、2021年度と比べて4900万円の減少となりました。他方、その他施設設備に係る補助金は、300万円増加しました。2020年度の1億9600万円は、仙川キャンパス第二期工事に対する「サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金」によるものです。

東京都の経常費補助金は、2018年度は13億3000万円、2019年度は13億4700万円、2020年度は13億3300万円、2021年度は13億4800万円と推移し、2022年度は13億5300万円でした。在籍する児童・生徒数、教職員数及び評価係数の影響を受けるため年度による増減はありますが、13億円台で安定的に推移していると言えます。

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
国庫補助金	経私立 常費大 補助等 金	一般補助	164,236	161,223	155,800	162,564	116,179
		特別補助	22,255	15,370	4,136	4,310	1,938
		計	186,491	176,593	159,936	166,874	118,117
	その他（施設設備補助金等）		13,749	70,086	196,410	39,631	43,052
	計		200,240	246,679	356,346	206,505	161,169
地方公共団体補助金	経東京 常費都 補助 金	一般補助	1,268,500	1,289,176	1,278,316	1,288,124	1,297,174
		特別補助	61,828	58,171	54,444	59,551	55,508
		計	1,330,327	1,347,347	1,332,760	1,347,675	1,352,682
	私立高等学校授業料軽減補助金		78,554	76,168	67,738	80,617	77,250
	結核予防費都費補助金		285	269	273	261	263
	私立高等学校都内生就学促進補助金		1,592	1,731	2,010	1,617	1,805
	富山市補助金		213,000	214,000	205,746	215,000	215,000
	その他（施設設備補助金等）		17,343	31,022	26,983	56,156	100,052
	計		1,641,102	1,670,537	1,635,510	1,701,326	1,747,052
	法人合計		1,841,342	1,917,216	1,991,855	1,907,831	1,908,221

3 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	64,931	64,831	特定資産(江戸奨学特定資産)
債券	国債	1口	12,462	12,941	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	31,130	32,351	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	102,836	109,799	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	104,105	111,466	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	23,565	有価証券
債券	国債	1口	49,945	53,225	有価証券
債券	国債	1口	205,854	219,580	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,424	21,406	有価証券
債券	国債	1口	49,527	44,300	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	104,405	108,280	有価証券
債券	大阪市公債	1口	102,368	105,350	有価証券
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	新日本製鐵(株)	1650口	896		有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811		有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	2000口	100		有価証券
計			871,543	907,095	

(2) 借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,055,450	0.50%	2033年3月～2034年3月	校地
日本私立学校振興・共済事業団	841,920	0.38% 0.50%	2035年9月～2036年9月	校地
計	1,897,370			

(3) 学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限	摘要
2017年度	61,100	0.00%	2024年3月	
2018年度	75,000	0.00%	2025年3月	
2019年度	63,600	0.00%	2026年3月	
2020年度	55,300	0.00%	2027年3月	
2021年度	61,200	0.00%	2028年3月	
2022年度	77,100	0.00%	2029年3月	
計	393,300			

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

種類	寄付者	金額	摘要
桐朋奨学会基金への寄付	新入生保護者	5,280	220口
緑と文化の基金への寄付	75期卒業生	500	
奨学会への寄付	小学校新入生保護者、短大保証人	2,945	71口
生徒特別教育活動基金への寄付	中高新入生保護者	923	65口
帰国子女教育活動基金への寄付	中高帰国生(新入生)保護者	280	7口
一般寄付	薄井紀子様・園田晴彦様他4名の方々	1,124	
一般寄付	卒業生、在学生保護者他	29,914	178口
一般寄付	—	200	1口
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	(特非)イエロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	6,000	1,200千円×5名
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	江崎正道様	5,000	5,000千円×1名
桐朋学園音楽部門70周年記念基金寄付金	コトブキシーティング(株)	500	1口
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	—	211	5口
若手音楽家支援プロジェクト寄付金	—	1	1口
桐朋学園音楽部門佐々木成子賞寄付金	戸塚亮一様	1,500	50千円×3名×10年間
現物寄付(教育研究用機器備品：グランドピアノ他)	吉原憲一様	3,840	4点
現物寄付(教育研究用機器備品：ヴァイオリン他)	飯田裕様	101,200	36点
現物寄付(教育研究用機器備品：グランドピアノ)	サッポロビール(株)	0	1点
現物寄付(図書)	—	1,079	399点
現物寄付(図書)	桐朋中学・高等学校PTA	736	
現物寄付(トランシーバー、ベンチ、図書)	小6卒業記念他	790	
計		162,023	

(5) 関連当事者との取引の状況

(単位:千円)

役員・法人等名称	資本金又は出資金	取引の内容	取引金額
理事 鈴木 正義	—	本法人の東京都私学財団からの借入金債務（入学支度金）に対する連帯保証人である。なお、保証料の支払いはない。	1,300
理事 原口 大助	—	住宅資金貸付規程及び特別資金貸付内規に基づき、男子部門より資金を借り受けている。	2,500

4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

(1) 男子部門

2019年12月に始まった新型コロナウイルス感染症が経営に与える影響はかなり少なくなってきたといっているといえるだろう。児童・生徒の学校生活も概ね以前の形に戻りつつある。

応募者を確保するために重要なものとなっている学校説明会も、すべて対面で行うことができたことは、志願者数を増加させるきっかけとなったと考えられる。また、中高の学校行事である桐朋祭は普段の生徒の活動を発表する場であると同時に、学校の雰囲気を知っていただく重要な機会の一つであるが、これも3年ぶりに一般の方々をお迎えする形で実施できたことは大きかったといえよう。

その結果として、志願者数を小学校は24名、中学校は1回目と2回目を合わせて148名増加させることが出来た。特に小学校では、コロナウイルス対応として行ってきた校舎見学会などを、今後も継続して行い、お子さんとともに学校を直に見ていただく機会を増やしていくこととした。

2022年度の中学3年生の在籍数が多かったことから、高校入試においては、外部から採りうる数が例年より大幅に少なかったものの、例年と比べ歩留まりがかなりよかったこともあり、定員をかなりオーバーする結果となった。今後も魅力ある学校作りに取り組み、より多くの受験生に本校への進学を希望してもらえる努力を継続していきたい。

新校舎建築後、新たな施設投資を行ってきていなかったことなどから、ここ数年間の支払資金の増減は、平均すると毎年1億5,000万円程度の増加となっていた。2022年度に関しては、中高体育館の2室に空調機器を設置した。また、コロナウイルスの影響により、ICT機器の活用が急加速してきており、これらに対応できるように設備の拡充を図ってきた。また、光熱費の高騰やPFAS問題の浮上による井水使用を当面の間見送ることなどにより、光熱水費支出が大幅に増加した。これらの結果、支払資金の増減が、コーラブル預金による支出を除くと、7,560万円程度まで落ち込んできている。

2023年度も、中高体育館3室への空調設備導入や中高HR教室へのAP設置工事、小学校北館折板屋根塗装など費用がかなりかかるものを計画している。また、次期建築へ向けての積立も開始される。その後も長期にわたる施設設備更新計画が重要となってくる。

コロナウイルスの影響を受け加速した少子化、年金制度改変、物価上昇などにより、数十年単位での学校規模の見通し、60歳以降の生活保障、有能な教職員を確保するための新たな賃金体系の策定など財務を中心とした課題が山積している。これらの問題を一気に解決することは困難であるが、長期的な視野にたつて、必要な改革を押し進めていかなければいけないと考えている。

(2) 女子部門

2022年度はコロナによる影響も薄れ、学園では本来の教育活動が戻ってきたと感じられる一年だった。校外活動や引率などが徐々に通常に戻るなか、旅費交通費等の支出も増えた。また大きかったのは、円安などの影響からくる原油価格の高騰に伴う光熱水費（特に電気・ガス代）の増加である。東京都などからの補助金もあったものの、それでは賄いきれないほどの上昇であった。ウクライナ戦争など不安定な世界情勢の中で致し方ない面もあるものの、省エネ等自分たちでできる工夫もさらに進めなければならないと痛感した。

また校舎改修の動きも本格化するなか、建物検査や改修計画のコンサルタント料などの支出もあった。女子部門の未来を築くために必要な支出といえるが、改修計画をいち早く軌道に乗せていかなければならないといえる。

財務全般の観点から眺めると、短大、中高の学納金収入の伸び悩みと教職員の人員減に伴う人件費の減少のタイミングのずれなどから、事業活動収支、繰越支払資金とも厳しい状況が相変わらず続いている。従前よりの寄付金募集の積極的な働きかけや戦略的な補助金の獲得等、学納金以外での収入増などはもちろんのこと、校舎改修に伴う部門内の施設移設と連動して、適切な教職員の配置の在り方を模索し、人件費削減を試みるなどの工夫が求められている。

また、定年の延長や高齢者の再雇用など、社会全体の仕組みが大きく変わっていく。女子部門として教職員の雇用制度をどのように考えていくかなど、中長期的にかつ継続的に取り組むべき課題が満載であるといえる。

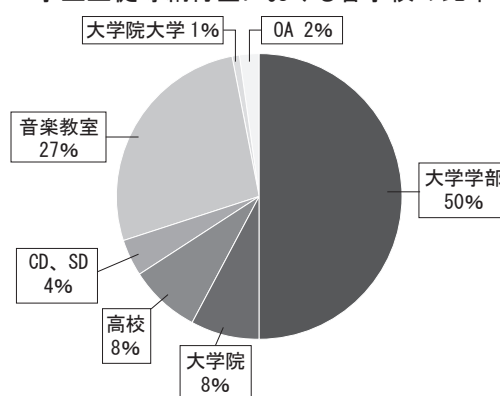
(3) 音楽部門

2022年度決算における音楽部門の単年度収入3,309,426千円のうち、学生生徒等納付金収入は2,760,239千円であり、収入全体の8割以上を占めている。そのうち、最も比率が高いのは大学学部の学生納付金1,393,655千円であるが、その次は音楽教室の生徒からの納付金748,880千円である。

学生生徒等納付金における各学校の比率

	校納金（円）	割合
1. 大学学部	1,393,655,002	50%
2. 大学院	211,651,002	8%
3. 高校	234,696,446	8%
4. CD, SD	112,893,750	4%
5. 音楽教室	748,880,554	27%
6. 大学院大学	15,900,000	1%
7. OA	42,562,667	2%

学生生徒等納付金における各学校の比率



2020年度に新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けた音楽教室の収入は、2021年度以降、順調に回復しており、2022年度の決算における音楽教室の収支は、全体としては13,720千円の黒字となった。一方、学生生徒納付金収入の中の、50%を占める学部学生からの校納金については、2021年度と比べて、大きく減じた。学部の学生数が40名減となったためである。

過去10年間の決算収支の変化

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2013年度	2014年度
単年度収支	13,720	10,221	△45,498	40,653	43,693	43,656	29,789	35,538	14,485	30,972
収入	761,535	760,356	658,371	802,664	789,293	787,578	767,915	775,124	754,867	778,286
支出	747,815	750,135	703,869	762,010	745,600	743,922	738,135	739,586	740,382	747,313
収支差額累計	△118,276	△131,996	△142,217	△96,719	△137,373	△181,035	△238,534	△268,323	△320,991	△290,019
在籍数	2,036	1,991	1,992	2,154	2,287	2,169	2,127	2,190	2,181	2,219

今後、学部や高校の入学者（特に、学部）を安定させることが重要である。

アフターコロナと言われ始めている現在、授業・レッスン、音楽会など、音楽部門の行う諸々の事柄が通常の対面での実施となり、face to faceで人と人とが実際に直に関わることができるようになった。音楽会など、規模の大小に関わらず音楽部門にとって重要な行事を本来あるべき形に戻して実施し、また、オープンキャンパスや学校案内の活動を通して、直接、音楽部門の教育の良さをアピールするなど、音楽部門がこれまでは必ずしも得手ではなかった、広報活動にさらに力を注いで、新入生の増加につなげるなど、学生生徒の定員充足率の改善に努めたい。

さらに、支出の大きな部分である人件費に関しても、実際の学生生徒数に適した専任教職員のあるべき数について、検討を始める必要がある。現在、2028年度に専任教員数が「53名」となることを目指しているが、教育力を維持発展させることを踏まえつつ、この数字について、部会や教科ごとの人数バランスなど、今後、検討して行く。